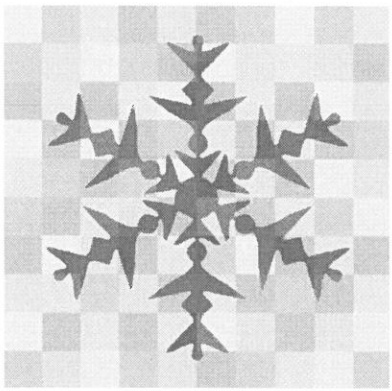
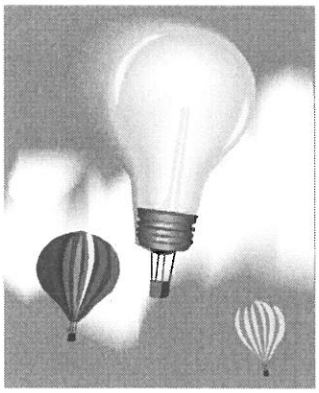
平成２８年度

教育委員会の事務に関する点検評価報告書







平成２９年３月

田 村 市 教 育 委 員 会

目　次

Ⅰ　はじめに　・・・

成状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
・指標１－５Ｃ：市内保育所共通カリキュラム（３歳児）　・・・・・・・・・・27
・指標１－５Ｄ：平成２８年度田村市小学校入門期指導の手引き　・・・・・・・28
（６）施策目標１－６：「特別なニーズに対応した教育を推進します。」　・・・・・29
・指標１－６Ａ：特別支援教育にかかる相談、訪問等による支援　・・・・・・・29
・指標１－６Ｂ：Q-U 検査による学級満足度尺度及び学校生活意欲プロフィール・30
・指標１－６Ｃ：教育相談体制における SC,心の教室相談員の派遣実績　・・・・・32

２　教育振興推進プログラムダイジェストⅡ（生涯学習課所管事業）・・・・・・・・・33
施策２　生涯学習の充実（生涯学習課）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
（１）施策目標２－１：「公民館の活性化を図ります。」　・・・・・・・・・・・・34
・指標２－１Ａ：市民のニーズを捉えた学級講座の企画　・・・・・・・・・・・34
・指標２－１Ｂ：市民に愛される公民館づくり　・・・・・・・・・・・・・・・34
（２）施策目標２－２：「放課後子ども教室推進事業を推進します。」　・・・・・・34
・指標２－２Ａ：放課後子ども教室の円滑な運営　・・・・・・・・・・・・・・34
・指標２－２Ｂ：コーディネーター及び指導員の育成と確保　・・・・・・・・・34
・指標２－２Ｃ：放課後子ども教室の周知及び広報　・・・・・・・・・・・・・35
（３）施策目標２－３：「学校支援地域本部事業の推進を図ります。」　・・・・・・36
・指標２－３Ａ：学校支援地域本部事業の推進　・・・・・・・・・・・・・・・36
・指標２－３Ｂ：地域の人材活用体制の整備　・・・・・・・・・・・・・・・・36
・指標２－３Ｃ：学校支援地域本部事業の周知及び広報　・・・・・・・・・・・36
（４）施策目標２－４：「図書館の機能を充実します。」　・・・・・・・・・・・・38
・指標２－４Ａ：利用促進に向けた図書館の資料及び機能の充実　・・・・・・・38
・指標２－４Ｂ：子どもの強く生き抜く力を育むための読書活動の推進　・・・・38
・指標２－４Ｃ：図書館事業の周知　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

施策３　芸術文化活動の推進（生涯学習課）　・・・・・・・・・・・・・・・・・40
（１）施策目標３－１：「芸術文化活動の推進を図ります。」　・・・・・・・・・・40
・指標３－１Ａ：芸術文化活動への支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
・指標３－１Ｂ：質の高い自主文化事業等の実施　・・・・・・・・・・・・・・40

施策４　文化財の保護と継承（生涯学習課）　・・・・・・・・・・・・・・・・・41
（１）施策目標４－１：「文化財の保護と継承を推進します。」　・・・・・・・・・41
・指標４－１Ａ：文化財の保存と継承　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
・指標４－１Ｂ：歴史民俗資料館の活用と文化財資料館の整備　・・・・・・・・41

施策５　スポーツ・レクリエーション活動の推進（生涯学習課）　・・・・・・・・42
（１）施策目標５－１：「スポーツ振興の推進を図ります。」　・・・・・・・・・・42

・指標５－１Ａ：運動公園内の施設によるスポーツ交流人口の拡大　・・・・・42
・指標５－１Ｂ：田村富士ロードレース大会への参加者の拡大と推進　・・・・42
・指標５－１Ｃ：ふくしま駅伝の参加並びに記録への挑戦　・・・・・・・・・42
・指標５－１Ｄ：小中学生を対象としたスポーツ大会・講習会等の開催　・・・・42
・指標５－１Ｅ：指導者対象の研修会、講習会の開催　・・・・・・・・・・・42

３　教育振興推進プログラムダイジェストⅢ（教育総務課所管事業）　・・・・・・45
施策６　教育行政の円滑な推進と効率的運営（教育総務課）　・・・・・・・・・46
（１）施策目標６－１：「教育委員会の活性化を図ります。」　・・・・・・・・・46
指標６－１Ａ：教育委員会の透明性を高める取組　・・・・・・・・・・・・・46
指標６－１Ｂ：教育推進プログラムの重点化と自己評価　・・・・・・・・・・48
指標６－１Ｃ：外部評価委員による評価及び公表　・・・・・・・・・・・・・48
（２）施策目標６－２：「教育環境の整備・充実を進めます。」　・・・・・・・・48
・指標６－２Ａ：教育活動の場にふさわしい環境の整備　・・・・・・・・・・48
・指標６－２Ｂ：施設の耐震化の推進　・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
・指標６－２Ｃ：児童生徒の安全な学校生活のための環境整備　・・・・・・・49
・指標６－２Ｄ：児童生徒の通学支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
（３）施策目標６－３：「教育予算を効果的・効率的に執行します。」　・・・・・・49
・指標６－３Ａ：田村市財政計画をふまえた効率的な予算執行　・・・・・・・・49
（４）施策目標６－４：「人材育成を推進します。」　・・・・・・・・・・・・・49
・指標６－４Ａ：奨学制度の効果的な運営　・・・・・・・・・・・・・・・・49
・指標６－４Ｂ：海外留学支援制度の周知　・・・・・・・・・・・・・・・・50
（５）施策目標６－５：「教育効果を高めるための学校規模の適正化を進めます。」・50
・指標６－５Ａ：学校規模の適正化推進　・・・・・・・・・・・・・・・・・50
・指標６－５Ｂ：統合小学校開校に向けた事務の推進　・・・・・・・・・・・51

Ⅳ　外部評価委員より　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

Ⅴ　結びに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59

はじめに

教育委員会では、児童生徒の健全育成にかかわる学校教育はもとより生涯にわたって生きがいをもちよりよい人生を歩むための生涯学習の充実のほか、芸術文化活動の推進や文化財の保護、スポーツの振興など多岐にわたっています。これらの事業内容は、学校教育課、生涯学習課、教育総務課のほか、各地域の公民館等所属機関の職員が一丸となり、事務事業を分担して市民の皆様の負託に応えるべく業務にあたっているところですが、市民の皆様にその成果を周知していただくのは、大変難しいことであると感じております。幼稚園、小・中学校にお子様をお預けいただいている保護者の皆様にはお子様の様子を通して、生涯学習関連にかかわる事業についてはその関わりの中、それぞれご承知いただいている部分もあろうかと思いますが、取組の状況を発信する機会は部分的でした。教育委員会としては、自ら点検・評価し、公表してご批正をいただきながら改善を加えるという姿勢が消極的であったと反省しているところです。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が平成１９年に制定され、事務事業の点検・評価並びに公表が義務づけられたことを受けて、平成２０年度から毎年度公表してきたところですが、１０年目の節目にあたり改めて自らの事務事業をより一層厳しく点検・評価して積極的に公表し、ご批正をいただいた上で改善していく意を強くしたところです。

平成２８年度は「田村市教育大綱」の一部改訂を行い、教育委員会と学校との連携を密にするとともに、現場の状況に応じてフレキシブルに対応する体制のもと、実質的な成果が目に見えるように努力を重ねてきております。本報告書は、その取組の記録となる側面もあるものと考え、PDCA のマネジメントサイクルが機能するように工夫改善を加えて作成いたしました。市民の皆様には、点検・評価の状況をぜひご覧いただき、忌憚のないご意見をいただきまして、教育委員会の取組がより一層活性化するよう改善を加えて参りたいと考えております。

教育委員会が市民の皆様にとりまして身近な頼りになる存在として感じていただけますよう努力して参りたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

平成２９年３月

田村市教育員会教育長　　助川　弘道

Ⅱ　事務事業の点検及び評価の目的、実施方針

1　目　的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第２６条の規定に基づき、田村市教育委員会の事務事業に関する管理及び執行状況について、教育に関する学識経験者の知見を活用して点検及び評価を行い、報告書を作成して議会に提出するとともに公表する。

> 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」
>
> 第２６条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
>
> ２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2　実施方針

（１）田村市教育委員会は、田村市教育大綱に示された事務事業について点検・評価結果をまとめる。

（２）田村市教育委員会は、田村市教育委員会外部評価委員会設置要綱に基づき、教育に関する学識経験者３名に外部評価委員を委嘱し、田村市教育委員会外部評価委員会を設置する。（以下、外部評価委員会という）

（３）外部評価委員会は、田村市教育委員会が行う事務事業についての点検及び評価（内部評価）について、意見を述べ、評価を行う。（外部評価）

（４）田村市教育委員会は、内部評価並びに外部評価について報告書を作成し、議会に提出するとともに公表する。

～　Ⅲ　主な施策と指標　～

田村市教育委員会 教育振興推進プログラム（ダイジェストⅠ） 平成２８年度版

田村市の将来像　「あぶくまの人・郷・夢を育むまち ～はつらつ高原都市 田村市～」
田村市教育委員会基本方針　「未来を担う人づくりのまち」

１学校教育の充実　地域が育て 地域で育つ市民参加の教育

■は今年度重点施策

① 知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲等の「確かな学力」を確立します。

(1) 学力向上の支援

■活用力を育成する授業の充実
- ○言語活動を充実する学習過程の工夫
- ○授業改善チェックシートの計画的活用
- ○定着確認シートの活用

□学習規律、学習習慣の確立
- ○授業での学習規律の定着と学び方の指導
- ○保護者シラバス・プログレスの推進
- ○家庭学習の点検と定着

■幼・小・中・高連携による取組
- ○連携推進会議
- ○小・中連携(中学校区)　○中・高連携
- ○小・中９年間をつなぐカリキュラム
- ○幼小中連携推進ステップアップ支援事業
- ○小学生サマースクール「先輩と学ぼう」

□学力実態調査の結果分析と活用
- ○田村市学力調査(NRT、中学生新入生)
- ○全国調査、福島県調査

(2) 英語が使える人材育成

□国際社会に対応した教育の体系的な実践
- ○小学生英語活動集中プログラム
- ○小学校英語活動充実のためのＡＬＴ派遣
- ○中学生夏季英語研修
- ○中学生海外派遣研修事業
- ○各中学校専任のＡＬＴ派遣

② 規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します。

(1) 道徳教育の充実

□「田村っ子のルール10」の実践

□道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

■道徳の時間の充実
- ○「心の教育」資料集の活用
- ○地域人材の積極的活用
- ○国、県資料の活用

□道徳的実践力の育成

(2) 体格・体力の向上の支援

■体育の授業と体育的行事の充実
- ○「運動身体づくりプログラム」の実践
- ○業間等を利用した運動の推進
- ○体力・運動能力等調査の結果分析と活用

□小学校水泳・陸上大会の実施

(3) 健康教育の推進

□食育に関する研修や授業の充実

■健康教育に関する指導の充実
- ○薬物乱用防止教室等の開催
- ○歯科保健教室、思春期保健教室の開催

□放射線教育の推進

(4) キャリア教育の推進

□９年間を見通したキャリア教育の充実
- ○勤労・職業体験活動の充実

(5)特色ある教育活動の推進

□伝統や文化に関する教育の充実
- ○伝統文化学習担当者会
- ○童謡・唱歌音楽祭　○立志式

□読書活動推進計画の作成と実践
- ○読書習慣づくり
- ○学校図書の整備・充実
- ○市図書館データベースの活用

□防災教育の推進

□環境教育と学校緑化の推進

□人権教育の充実とJRC活動の推進

③ 教職員の資質の向上を図ります。

(1) 教職員の指導力の向上

■学力向上推進会議の充実
- ○学力向上推進会議
- ○学力向上推進委員・学校教育指導委員の研修
- ○市全体及び中学校区単位の授業研究会
- ○授業改善のための定着確認シート活用の研究

□各種研修会の充実
- ○転入教職員研修会　○講師研修
- ○小学校英語担当者Ｂ・Ｈ研修
- ○小・中英語担当者とＡＬＴの合同研修
- ○いじめ・不登校対策研修会
- ○食育推進コーディネーター・学校栄養職員研修
- ○養護教諭研修会○幼稚園教諭等研修会
- ○コンピュータ等教育推進研修会
- ○中学校武道充実のための講師派遣

■計画訪問等による授業力向上の支援
- ○指導訪問・要請訪問
- ○校内研修等への支援

□日常的な授業改善への支援
- ○授業改善チェックシートの計画的活用（再）
- ○学力向上だより・指導資料の配付

□教育の情報化対応の充実
- ○ICT機器の有効活用に関する研修
- ○情報モラル教育の充実と保護者への啓発

(2) 服務・倫理の確立

■教職員の不祥事根絶と勤務の適性化
- ○校内相談体制の構築
- ○体罰絶無のための研修
- ○教職員の勤務実態の適正化と健康増進

④ 施策の点検・検証を行うとともに、学校の運営体制を支援します。

(1) 施策・事業等の評価

■教育振興推進プログラムの着実な実践と評価

□教育実践成果の積極的な公表
- ○教育実践報告会の開催
- ○教育委員会ホームページ等による広報活動の充実

(2) 開かれた学校づくり

□教育活動の積極的な公開
- ○学校だよりの発行
- ○ホームページ活用等による情報発信
- ○学校へ行こう週間の実施

□学校評価による学校運営の充実
- ○学校評議員の委嘱と学校運営への参加
- ○学校評価の公表と学校関係者評価の充実

(3)地域教育力の活性化

■地域ボランティアの積極的活用
- ○学校支援地域本部事業との連携
- ○小学生サマースクール(再)

□田村市の教育 10 のキーワード

⑤ 幼児期における教育を推進します。

(1) 保・幼・小の連携強化

■保幼小連携による幼児教育の推進
- ○「田村市公立幼稚園共通カリキュラム」
- ○「たむらっ子はぐくみステップ」の実践
- ○保・幼一元化に基づく教育の充実
- ○小学校入門期指導の充実

(2) 幼児教育の保護者負担の軽減

□市立幼稚園の保護者負担金の無料化

⑥ 一人ひとりのニーズに対応した教育を推進します。

(1) 特別支援教育の充実

□特別支援教育支援員の配置と研修　□特別支援教育コーディネーター研修の充実
□通級指導教室の開設と充実　□「すくすく教室」と連携した就学相談の充実

■関係機関との連携による「サポネット田村」運営の充実
- ○サポネットファイルの活用　○研修・啓発セミナー等の実施

(2) 個や学校のニーズに対応した教育の推進

□学習機会の提供
- ○小学生サマースクール(再)　○長期休業中等による自主学習指導支援
- ○復興支援：田村っ子の元気を支援する事業

(3) 学校への適応指導の充実（いじめ・不登校防止等への対策）

□適応指導の充実
- ○学級生活満足度調査（Q-U調査）の実施と活用（小３～中３）
- ○小・小連携、小・中連携による交流事業　○導入期（異校種の接続）指導の充実

■いじめ、不登校への迅速で適切な対応
- ○市いじめ防止基本方針に基づく体制の整備（いじめ問題対策委員会等）
- ○心の教室相談員の中学校配置と小学校派遣　○SC,SSW派遣事業の活用
- ○「ほっとスペース」(ボランティアによるフリースクール)との連携

(4) 学校の危機管理体制の充実

□アレルギー、感染症への対応
- ○学校給食食物アレルギー対応体制の確立　○感染症への対応体制の確立

□非常時情報伝達体制整備
- ○緊急時メールシステム　○災害時対応マニュアルの整備と周知

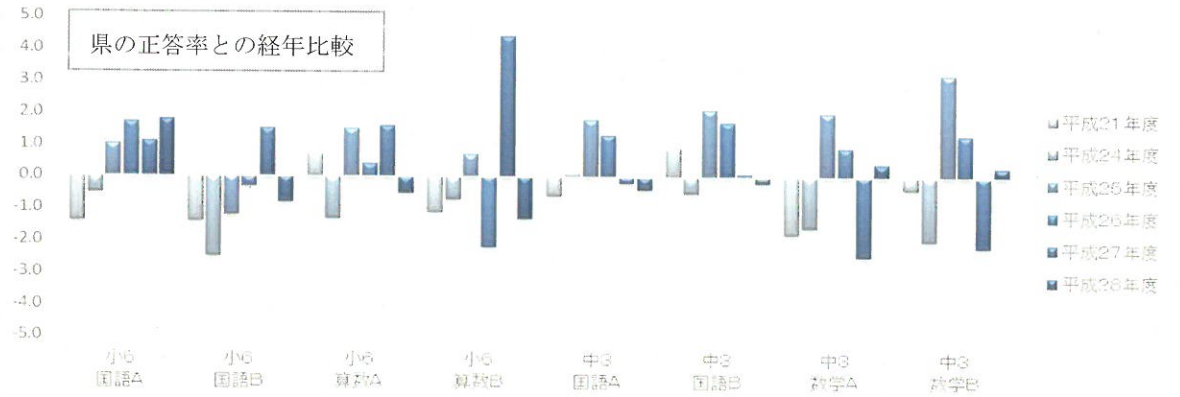
[田 村 市 の 教 育 10 の キ ー ワ ー ド]

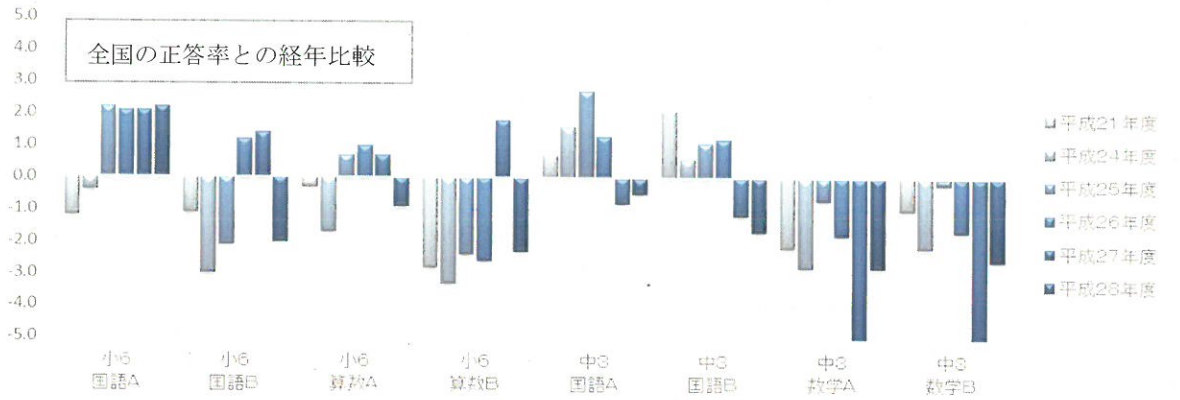
①安全・安心（危機管理）
②共生と連携と評価の時代（教育の道しるべ）
③実践と点検・検証（教育活動の原理原則）
④真実は相手が理解してはじめて真実になる(説明責任・結果責任)
⑤心身を養えば学力は伸びる（知・徳・体のとらえ）
⑥基礎・基本（学力向上の基盤）
⑦当たり前のことを当たり前に思って当たり前に行動する(行動基準)
⑧感動と共感と感化（情操の育成）
⑨愛郷心（語り継ぐ田村の教えと郷土への誇り）
⑩市民参加の教育づくり(地域連携の強化と地域教育力の向上)

参考　：　施策指標の達成状況

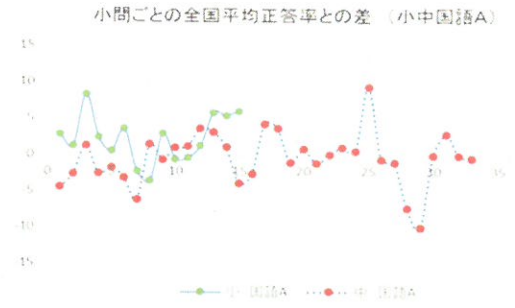
【指標１－１Ａ】学力の定着度　全国学力学習状況調査（小６・中３　４月実施）

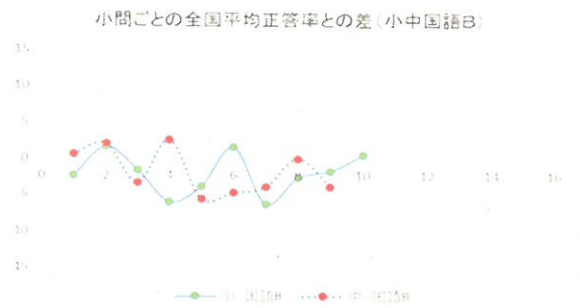
（１）福島県平均正答率及び全国平均正答率との経年比較

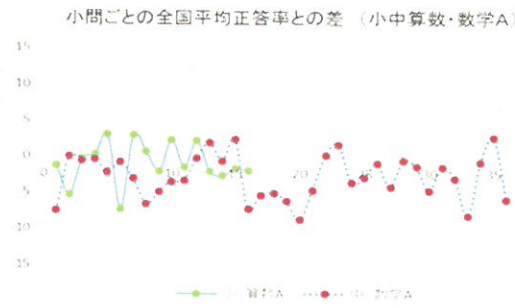


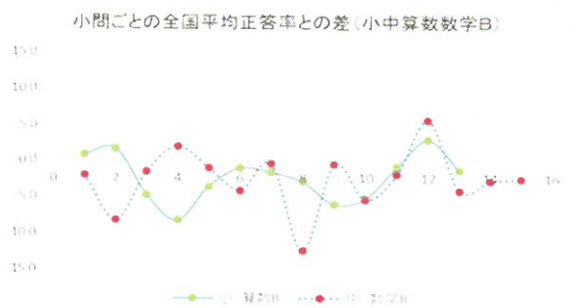


（２）各教科における問題（小問）ごとの全国平均との差

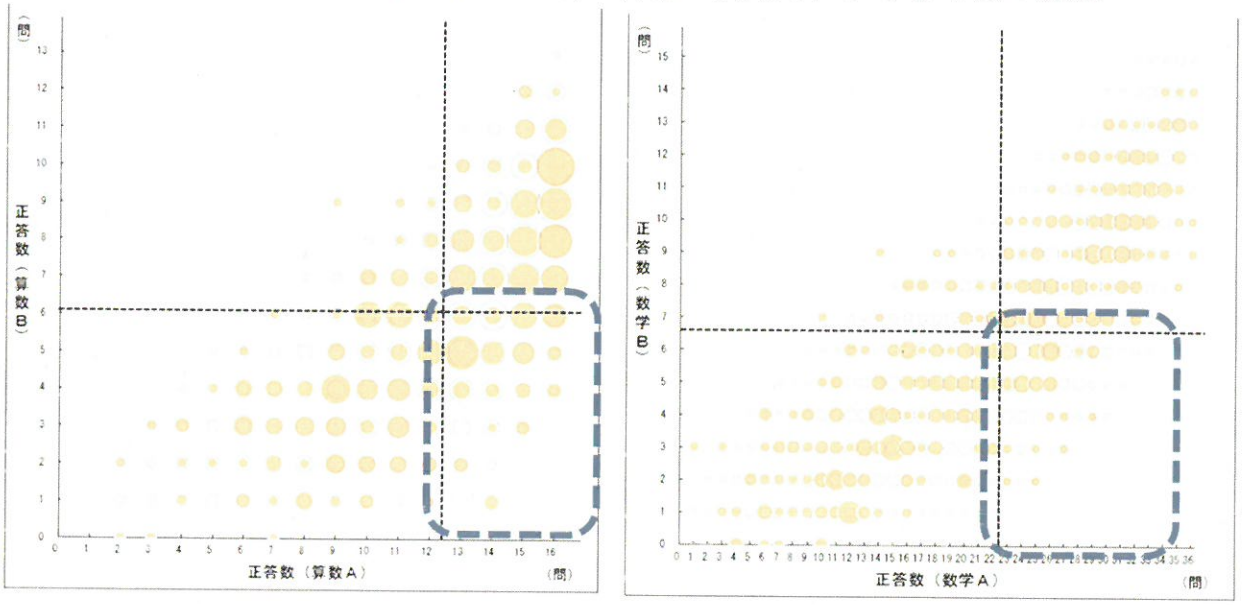








（3）算数・数学における知識・理解の習熟と活用力における今後の課題



上記、バブルチャートは、本市における算数・数学の習熟と活用の相関を表わしたグラフである。点線で囲んだ領域は、「知識・理解の習熟は図られているが、活用力に課題がある児童生徒の人数分布」を表している。特に、小学校において、この部分での人数分布が多い。

〈考　察〉

○　各教科の正答率は、県や全国の平均正答率とほぼ同様の傾向を示し、依然として各教科において、「Ｂ；活用」の正答率が課題である。

○　全国の平均正答率との経年比較では中学校の数学で改善が見られたが、小学校の算数では昨年より低くなる傾向があった。

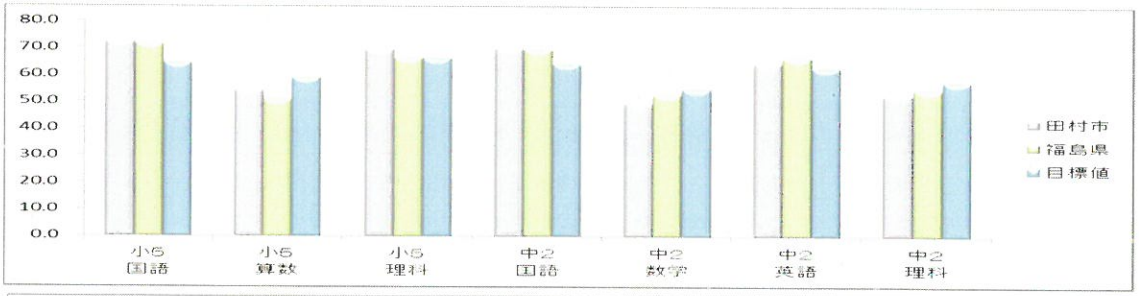
○　小問ごとの正答率の分布により、「Ｂ；活用」より「Ａ；習熟」において、全国との差があることがわかる。また、小中学校ともに国語・算数 A 問題では全国を下回る設問と上回る設問が混在していることから、基礎的・基本的な事項の確かな定着が必要であることがわかる。算数・数学 B で、全国を下回る正答率の設問は、全体の３分の１程度であり、全国平均との差が縮まり、改善の傾向がうかがえる。

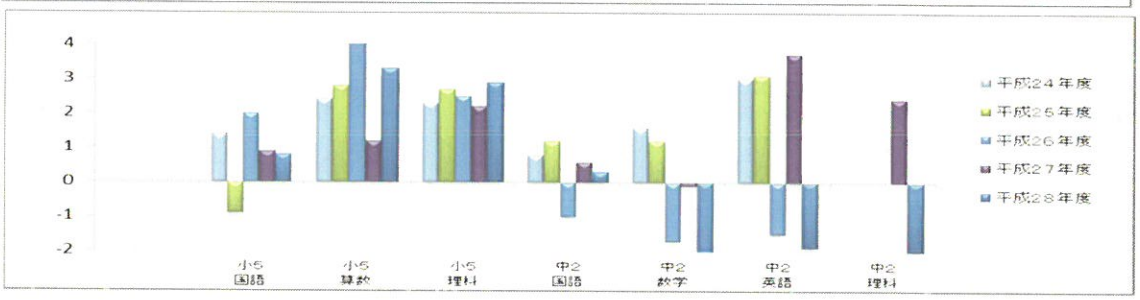
○　今後、知識・技能のより確実な習得、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力等の育成、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的・対話的に取り組む態度を育てるための指導力の向上が必要である。

○　特に、思考力・判断力・表現力等を育成する過程で、基礎的な知識・技能の習熟を図る授業のあり方や「わかる・できる授業」の実現に向けた授業改善になお一層取り組む必要がある。

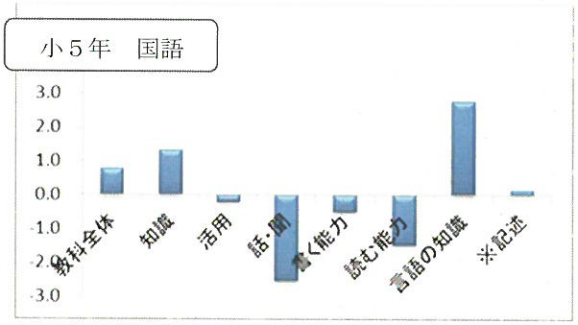
【指標１－１Ｂ】学力の定着度　福島県学力調査　（小５・中２　１１月実施）

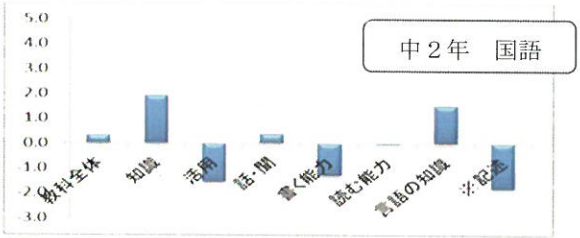
（１）福島県平均正答率との比較および経年比較

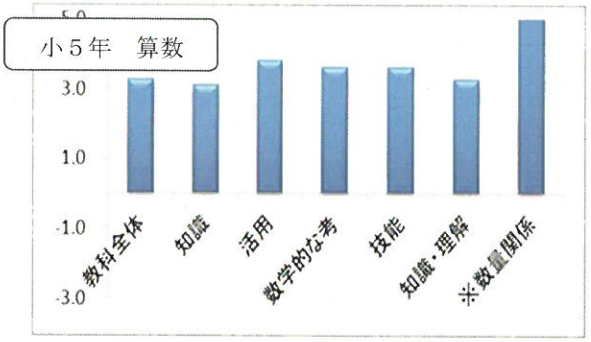


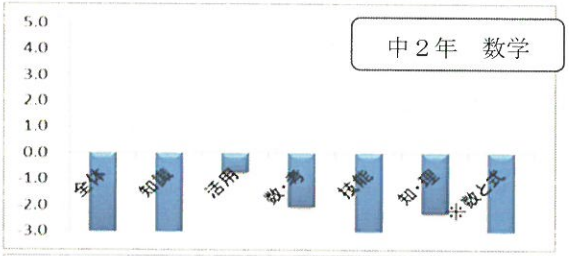


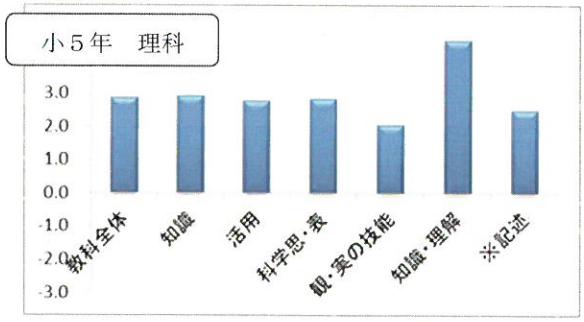
（２）各教科の知識・活用の枠組み、領域、観点における県平均との差

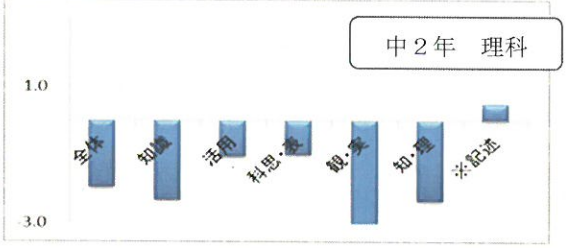


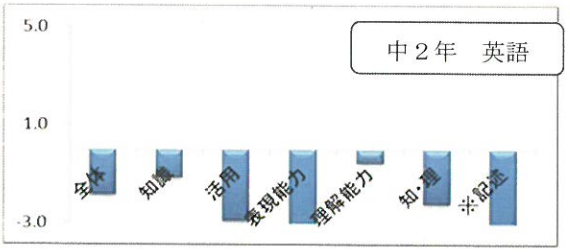




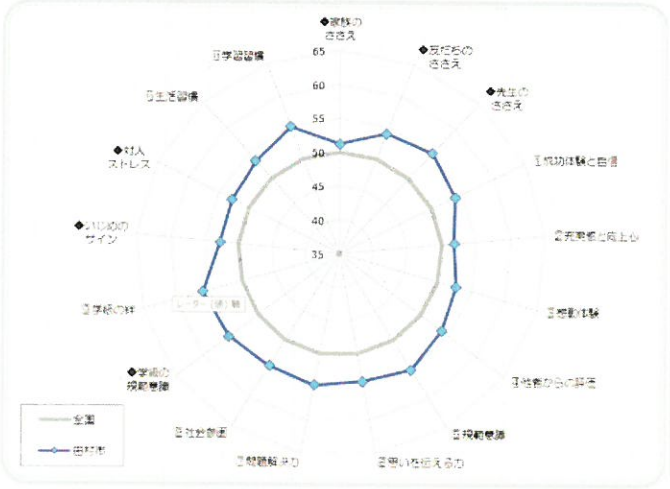


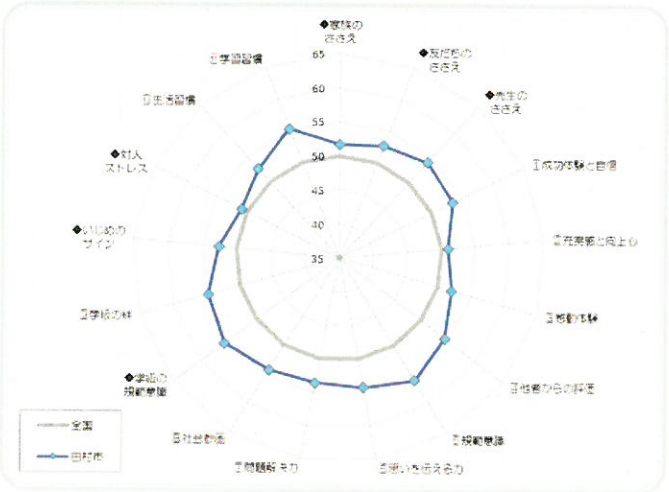






（３）生活・学習意識調査における県平均を標準とした際の田村市の状況





〈考　察〉

【国語】

①　小中ともに県平均および目標値を上回ることができた。

②　小中学校とも知識の枠組みで県平均を上回った。

③　小中学校ともに活用の枠組みで県平均を下回った。

【算数・数学】

①　小学校で知識・活用の両枠組みで県平均を大きく上回った。

②　中学校では、県平均を下回ったが、活用の枠組みでは、県平均と同等であった。

【理科】

①　小学校では、知識・活用ともに県平均、目標値を上回った。

②　中学校では知識・活用、全領域、全観点で県平均を下回ったが、県平均を大きく上回る学校もあり、学校間の差が認められた。

【英語】

①　県平均を下回った。知識・理解、全領域、全観点で県平均を下回ったが、学校別では県平均を上回る学校が４校あった。

【生活・学習意識調査】

○　規範意識が高く、学習習慣において、肯定的な意識がある。

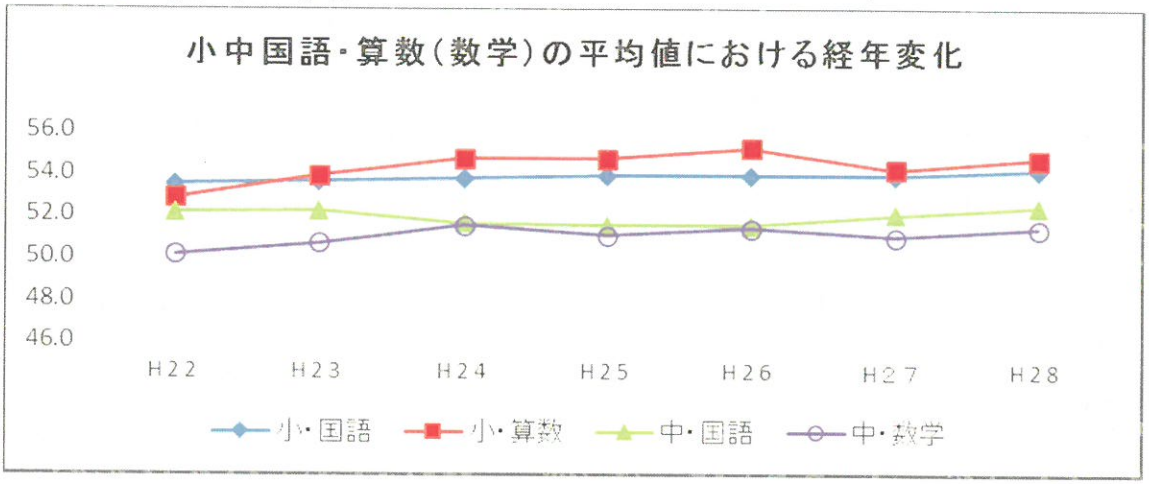
○　社会参画意識、学級の絆を大切にする意識が高い。

●　家族の支えを欲している状況があり、充実感と向上心や自尊感情に関する質問で肯定的状況が低い傾向が見られる。

●　対人ストレスやいじめに関する項目で、県平均を上回ってはいるが、市全体の中では低い傾向を示していることから、人間関係の構築や仲間づくり等の面で今後留意していく必要がある。また、まわりに自分がどう見られているか意識する傾向があり、集団に埋没しようとする傾向がある。

【指標１－１Ｃ】　学力の定着度　田村市学力実態調査
（教研式全国標準学力検査）（小１～中２　１月実施）

（１）平均偏差値の推移



【小学校】　国語＋０．３　算数＋０．５　【中学校】国語＋０．３　数学＋０．４

（２）目標達成率（平均偏差値より）

①　平成３３年度達成目標値

小学校　国語・算数　５６・５

中学校　国語・数学　５４

②　平成２８年度目標達成率

	小１	小２	小３	小４	小５	小６	小・平均	中１	中２	中・平均
国語	54.4	54.6	55.1	53.5	53.3	54.2	54.2	52.4	52.4	52.4
	達成率 95.9%							達成率 97.0%		
算数 数学	53.7	54.4	55.8	54.2	56.7	53.4	54.7	53.0	49.8	51.4
	達成率 96.8%							達成率 95.2%		

※　達成率は平成33年度目標　小学校（56.5）　中学校（54.0）に対する達成率を示す。

〈考　察〉

○　小中学校、国語、算数・数学において、前年度比で上昇した。

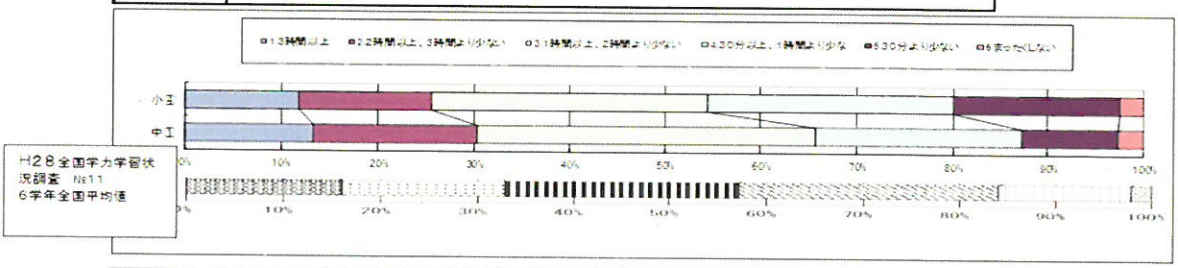
○　伸びが顕著な学年は、小学校５年・小学校６年であり、福島県学力調査（小５）、全国学力学習状況調査（小６）の結果を受けた改善の取組がなされた結果であると考えられる。

○　全学年共通的に、国語では言葉のきまりや漢字の読み、書きでは全国平均を上回り、話すこと、聞くこと、および、文学的文章の読み取りに課題がある。今後とも表現力と読解力の育成を図る授業改善が必要である。

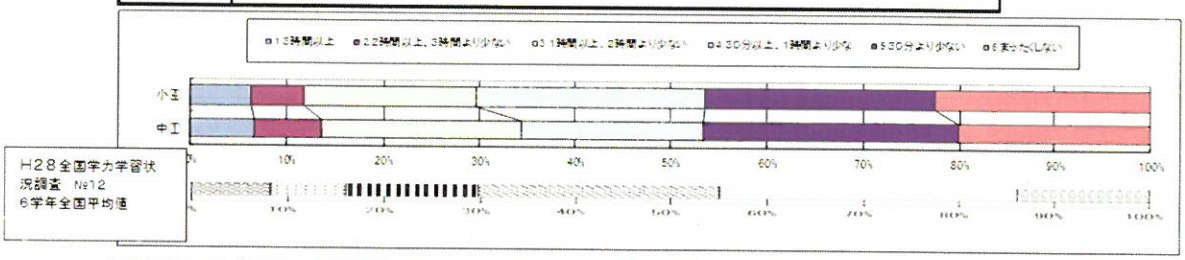
○　算数・数学では、数量の関係や数学的な事象を適切な文章で表現することが全学年で課題があり、中学校での連立方程式や証明の基礎となる学習内容のより一層の定着を小学校段階から重点的に取り組む必要がある。

【指標１－１Ｄ】　家庭学習の定着度（田村市「学びの習慣作り事業アンケート」
（小４・中１　５・１月実施）

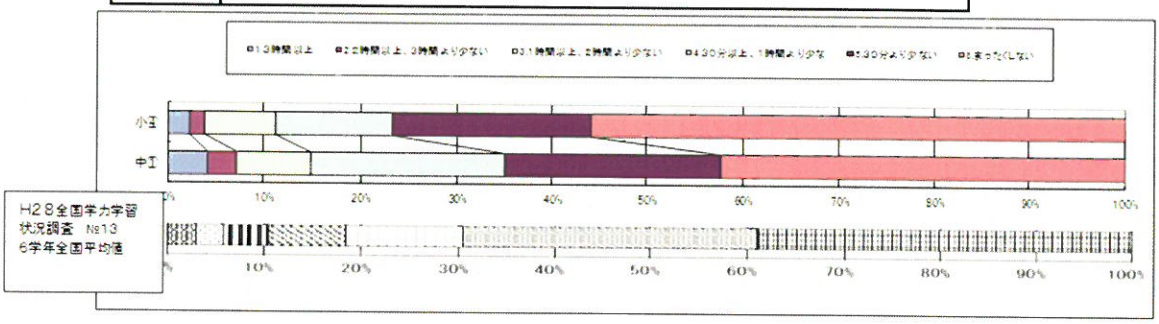
質問12	ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見ていますか。（ゲームをする時間はのぞきます。）



質問13	ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。（コンピュータのゲーム、DSやプレステなどの携帯式のゲーム、携帯電話やスマホのゲームをふくみます。）

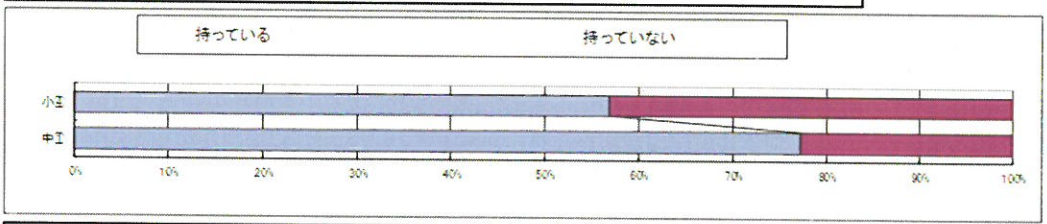


質問14	ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたり、どれくらいの時間、メールやライン、インターネットをしますか。（ゲームをする時間はのぞきます。）

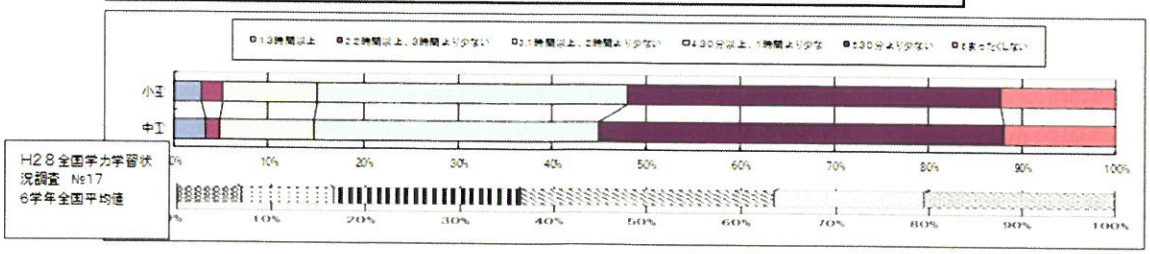


質問15	自分専用の携帯電話、スマートフォン、タブレット、またはインターネットに接続したことがある携帯式のゲーム機（DSやﾌﾟﾚｽﾃ）や音楽プレーヤーを持っていますか。

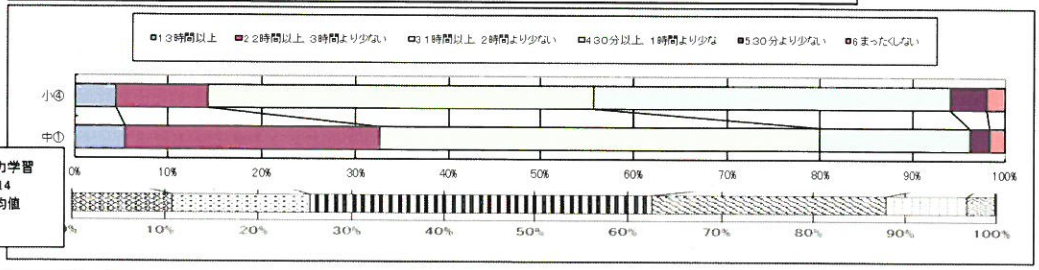
今年度新規調査内容



質問16	家や図書館で、ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。（教科書や参考書、雑誌はのぞきます。）

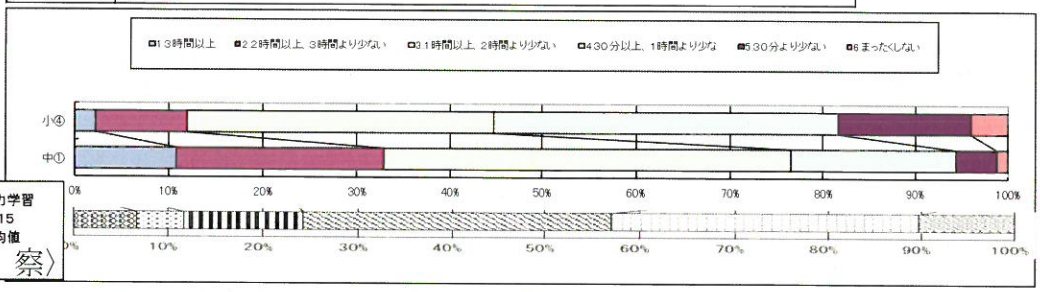


質問10	学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、学習をしていますか。



H28全国学力学習状況調査 №14
6学年全国平均値

質問11	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、学習をしていますか。（学習塾や家庭教師の時間もふくみます。）



H28全国学力学習状況調査 №15
6学年全国平均値

〈考　察〉

○　月曜日から金曜日までの家庭学習時間において、「３０分より少ない」「まったくしない」が全国平均より少ない。

○　テレビ、ビデオの視聴、ゲームでの遊び時間については、本市小４、中１と全国小６は同じ傾向を示している。

○　読書については、「まったく読書をしない」割合は、全国に比べて少ないが、積極的に読書に親しむ児童生徒の割合も決して多くはない。

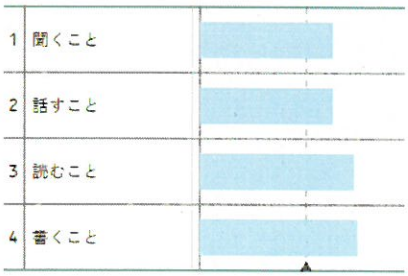
○　インターネットに接続できる機器の所有状況については、今後増加する傾向が考えられることから、継続的に調査をしていく必要がある。その中で、児童生徒が自律的に望ましい生活を作り上げていくための「メディアコントロール」への取組は、重要になると考えられる。

【指標１－１Ｅ】 外国語指導助手の派遣実績（単位：回）

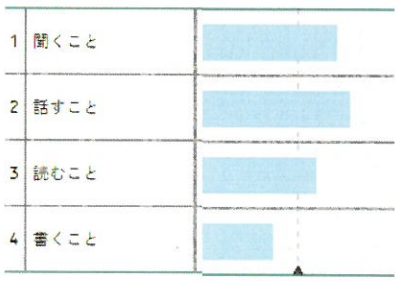
学　校　名	Ｈ２８	学　校　名	Ｈ２８
滝根小	３４	滝根中	１６２
大越小	３４	大越中	１６２
古道小	２０	都路中	１０８
岩井沢小	１９	常葉中	１５７
関本小	２０	船引南中	１３８
常葉小	１９	船引中	５６８
西向小	１９	移中	１０８
芦沢小	１３	合　　計	１４０３
船引南小	１３	英語活動集中プログラム 10月6日　常葉・都路中学校区小学校 （常葉公民館） 船引南・移中学校区小学校 （芦沢小学校） 10月13日　船引中学校区 （船引小学校） 10月27日　滝根・大越中学校小学校 （滝根小学校）	
船引小	５２		
美山小	１３		
緑　小	１３		
瀬川小	１３		
要田小	１３		
合　　計	２９５		

田村市学力実態調査における領域別の全国との比較

〈中学校１年〉



〈中学校２年〉



＜考　察＞

○　田村市学力実態調査においては、中学校英語における「聞くこと」「話すこと」「読むこと」の領域を中心に全国平均を超える結果となっている。小・中学校における英語指導助手のティームティーチングによる授業が充実してきている結果であると考えられる。



○　小学校１年生から外国語にふれる活動等を実施し、英語でのコミュニケーションの楽しさを味わう活動の充実が図られた。

【指標１－２①A】「田村っ子ルール１０」の学年別達成度

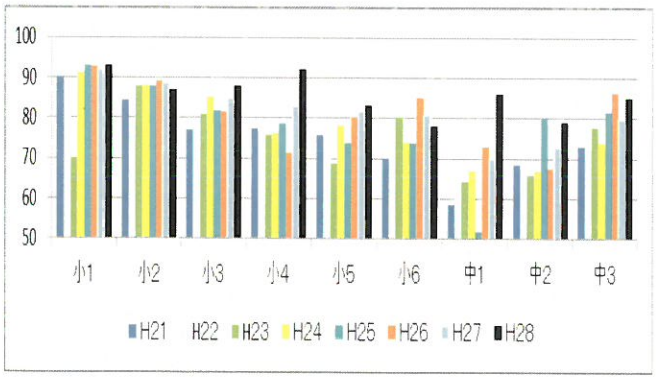
［「田村っ子ルール１０」アンケート調査結果］

8割以上達成しているもの　　調査年月：平成29年1月　　（単位：%）

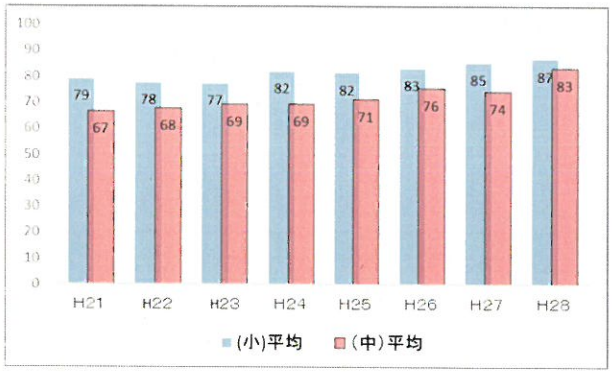
ルール10	小学校								中学校					小中計	
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	平均	前年比	中1	中2	中3	平均	前年比	平均	前年比
あいさつをしよう	96	96	98	98	98	99	98	1	98	99	97	98	1	98	1
はっきりとした声で返事をしよう	97	96	91	95	93	91	94	2	90	81	83	85	1	89	1
「ありがとう」と言おう	98	91	95	99	96	98	96	0	97	96	97	96	0	96	0
素直にあやまろう	97	92	93	95	92	95	94	0	94	92	92	93	0	93	0
きちんとかたづけよう	92	95	90	95	92	88	92	2	85	92	85	88	1	90	2
うそはつかない	95	90	93	94	91	91	92	3	86	91	89	89	1	91	3
相手の目を見て話そう	96	92	94	97	93	85	93	1	87	83	88	86	3	89	1
時間を守ろう	93	90	95	94	91	92	92	1	94	94	92	93	4	93	3
相手のいいところを見つけよう	93	87	88	92	83	78	87	2	86	79	85	83	9	85	5
はきものをそろえよう	95	93	92	96	92	95	94	0	94	94	95	94	0	94	1
8割以上達成した「ルール」の数	10	10	10	10	10	9			10	9	10	10		10	
（昨年比）	0	0	0	0	0	−1			1	1	0	0		1	

【参考】ルール９「相手のいいところを見つけよう」経年変化

＜年度別各学年の推移＞



＜年度別小中学校の推移＞



＜考察＞

○　「田村っ子ルール１０」の達成状況は、小中学校ともに全ての項目で８割以上となっている。前年度比較でも、小中それぞれで、７割の項目で達成度が向上している。また、「相手のいいところを見つけよう」も年々定着率が向上し、これまでの取組による成果が見られる。

○　各学校における効果のあった取組を今後も継続するとともに、児童生徒の定着状況を把握し、個別の指導をしていく。

○　別葉を生かした道徳教育など、各種教育との関連を明確にして、教育活動全体を通して計画的に指導を行う。

【指標１－２①Ｂ】道徳教育指導状況［福島県道徳教育実施状況調査］

Ｈ２８年12月

1　福島県ふくしま道徳教育資料集（第Ⅰ集「生きぬく・いのち」、第Ⅱ集「敬愛・つながる思い」、第Ⅲ集「郷土愛・ふくしまの未来へ」）の活用状況

活　用　状　況	小学校数	中学校数
・全学年で活用した。	9	4
・一部の学年で活用した。	5	2
・これから活用する予定である。	0	1
・活用する予定はない。	0	0

活用率　１００％

2　道徳の授業参観（公開授業・保護者向け授業参観）について（学校数）

授業参観の実施状況	小学校数	中学校数
・実施した（１学級のみの実施も含む）	11	5
・今年度中に実施する予定である。	3	2
・実施する予定はない。	0	0
・その他	0	0

実施率　１００％

3　道徳教育全体計画の「別葉」（様式は任意）について（学校数）

「別葉」の作成状況	小学校数	中学校数
・作成している。	14	7
・今年度中に作成する予定である。	0	0
・作成する予定はない。	0	0
・その他	0	0

作成率　１００％

〈考　察〉

○　全ての学校でふくしま道徳教育資料集を活用した授業が実施された。田村市ルール・マナー集、心の教育指導事例集の活用と併せ道徳教育の充実が図られている。

○　保護者に対し、道徳教育の重要性及び学校の取組の理解を得るため、授業参観等での道徳の時間の公開を積極的に行っている。

○　道徳教育全体計画別葉（指導内容についての他領域との関連表）は全ての学校で作成してある。改善を加えながら効果的に活用するよう指導助言してきた。

○　平成３０年度からの道徳の教科化に向けて、指導方法や評価について市内各学校に情報提供を進めていく。

【指標１－２①Ｃ】童謡唱歌音楽祭実施状況

平成２８年１１月１７日（木）
於；田村市文化センター

参加者　各小学校４年生児童　３１１名
（瀬川小・岩井沢小・要田小は３年生も含む）

来場者

来賓	議会関係	８名
	外部評価委員	２名
	PTA 会長	１名
	中学校長	２名
	公民館長	１名
	高齢者学級	１００名（滝根１７・常葉２４・都路３３・大越２６）
	保護者・一般	１１２名
講師	都路民話の会	４名
主催者		５名　（副市長・教育長・教育委員等）
その他		約４５名（引率教師・実行委員・事務局等）
合　計		５９１名

〈一般参加者・保護者の感想〉

・　子どもたちの元気な歌声が心を清らかにします。この子どもたちが幸せに，すくすく育つ世の中にしたいと思いました。来年も，ずっと続けていただきたいと思います。(50 代女性)
・　とても感動しました！すばらしかったです。また，聞きたいと思いました(40 代女性)
・　毎年楽しみにして来ています。幼い頃を思い出し，懐かしみ，心が安らぎます。毎年続けてください。(60 代男性)
・　子どもたちの合唱も，民話語りもよかったと思います。子どもの人数が少なくなっている今，このような行事を他校と合同で行うことにより開催していただけてありがたいです。これからも続けてほしい行事です。(50 代女性)

〈考　察〉

○　児童生徒にとって、日本の伝統文化にふれると同時に，日常の音楽学習の成果を発表する機会となっている。また、市民にとっても小学生の歌声を聞くことができる場となっている。
○　今年度は、プロによる絵本朗読を実施せず、児童による学校紹介と都路民話の会による民話語りを実施し、児童や地域住民が主体となるステージとした。民話は４話としたが、時間的なことから次年度は２話程度が適当であると考えられる。

【指標１－２①D】　読書状況

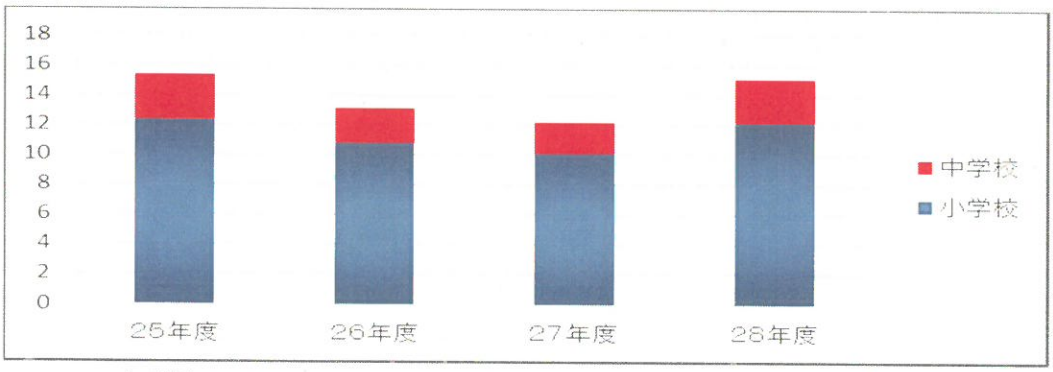
1　福島県読書に関する調査　（小１～中３　１１月調査）

（１）学校図書館の利用促進(貸出目標)目標値及び
参考値としての平成２７・２８年度読書に関する調査結果

項　目		目標値（平成31年度）	参考数値	
			平成２７年１１月	平成２８１１月
学校図書館の利用促進（貸出目標）	小学校低学年	年40冊以上／人	16.4冊/人	19.5冊/人
	小学校中学年	年30冊以上／人	9.9冊/人	9.8冊/人
	小学校高学年	年20冊以上／人	6.3冊/人	7.4冊/人
	中学生	年10冊以上／人	2.2冊/人	2.9冊/人
	平　　均		8.7冊/人	9.9冊/人

（一か月に児童生徒一人当たりが読んだ本の冊数市平均値）

（２）読書に関する調査結果経年変化



※各学校における小学校１～６年生、中学校１～３年生の平均を算出

〈考　察〉

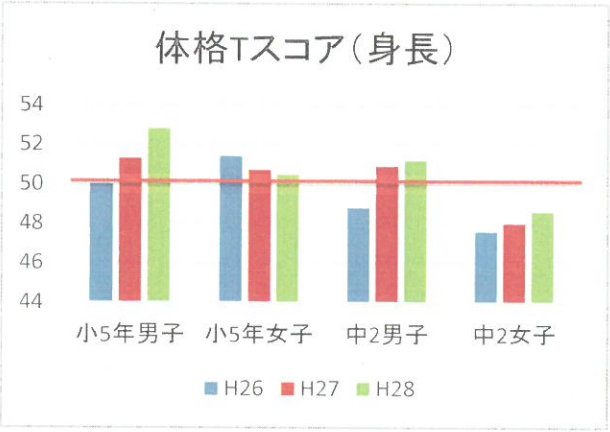
○　各学校において朝の読書や親子読書、家庭読書の日等の実践により、本を読む機会を意図的に設定し、読書推進を進めている。

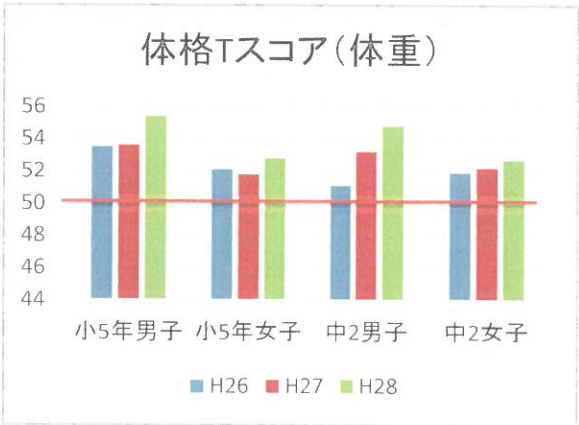
○　小中学生一人あたりの一か月平均冊数は９．９冊であり、昨年度比１冊増である。また、これを１年間の読書冊数に換算すると１１９冊となる。

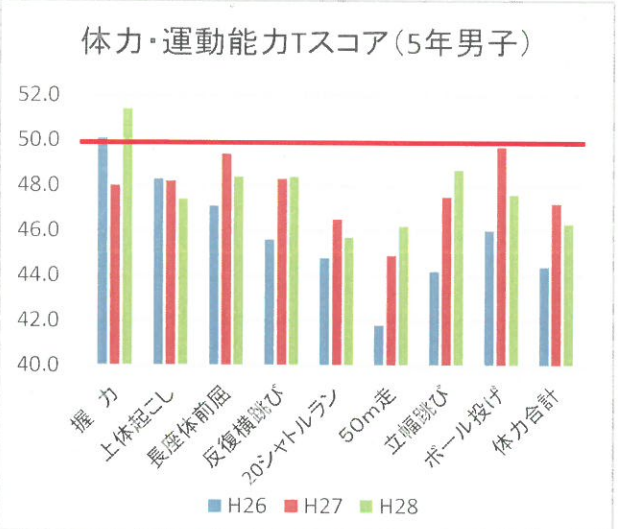
○　今後は、読書の量だけでなく、質も含めた向上を図る指導が必要である。

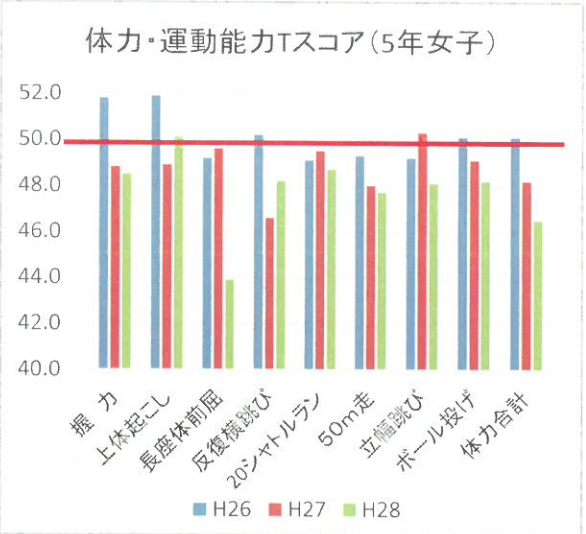
○　国語における単元を貫く言語活動との関連から並行読書による比べ読みやブックトーク等の多様な読書活動を取り入れた読書指導を展開することで、読書の質の向上や興味関心の醸成に努めた。

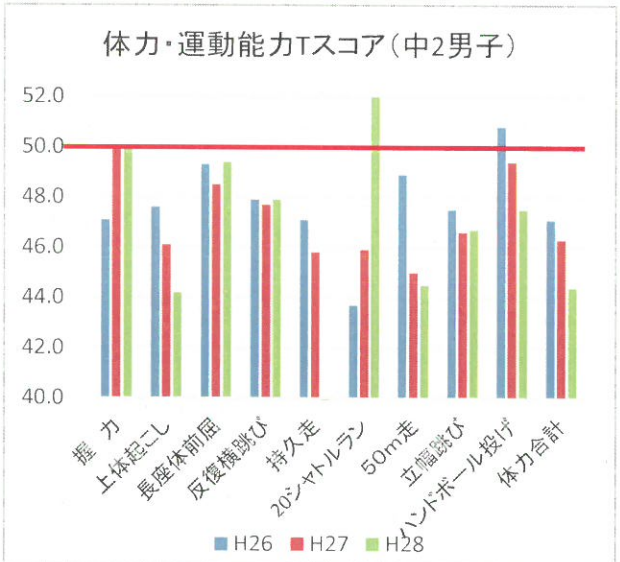
【指標１－２②A】全国体力・運動能力調査における田村市の状況（全国平均値＝５０）

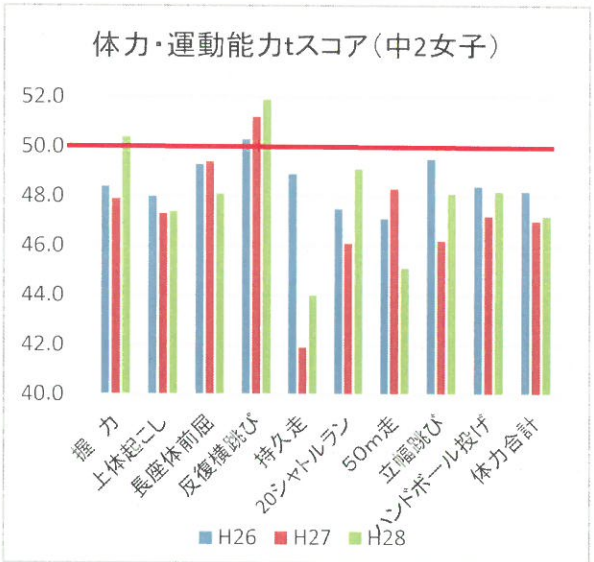












〈考察〉

○　小学生では，体格（身長・体重）では全国平均を上回っているものの、体力・運動能力に関しては、全国と比較すると男子で低い要素が多く，特に走力（スピード，全身持久力）に課題がある。中学２年生も同様で，体格面では全国平均を上回っているが、体力・運動能力に関しては、年度毎の課題は多少異なるものの，筋力・筋持久力，

全身持久力，スピード，筋パワーなどバランスよく向上させることが必要である。

○　幼児期から小学校中学年においては，運動に対する二極化を防ぐこと，幼児期には，多様な動きを経験できるような遊びを工夫すること，楽しく体を動かす時間を毎日60分は確保すること，発達の特性に応じた遊びを経験させることが必要である。学童期（低・中学年）においても，運動身体づくりプログラム活用し，動ける体づくりをさらに推進すること，学校行事等と関連させながら「めあて」をもって日常的に体を動かす機会を確保していくことが必要である。

○　小学校高学年以降においては，短距離走やハードル走などにおいて，スピードや筋パワーを高める運動を工夫して取り入れるとともに，マラソン，水泳など全身を使って長い時間運動する機会を設けて，心肺機能を高めていくことを，体育の授業や部活動に取り入れるようにしたい。

【指標１－２②B】各校の体力向上推進計画の実施状況

運動身体づくりプログラムの実施（小学校）	小学校14校 （中学校７校では独自の体力向上プログラムを実施）
業間等を利用した運動の機会の確保（小学校）	・朝（業間）マラソン・運動タイムの実施 ・陸上競技練習の工夫
部活動の改善と特設部の活動の工夫（中学校）	・特設陸上部と駅伝部の活動時間と参加人数の確保 ・部活動でのランニングや体力（体幹）トレーニングの取組
その他の体力向上の取組	・体育専門アドバイザーの活用 ・外部講師（陸上・ダンス）の活用 ・スポーツ笑顔の教室の活用 ・運動の楽しさを味わわせる体育授業の工夫 ・ダンスをとおした動ける体つくり ・体育の合同授業とＴＴによる指導 ・体育行事での個人目標の設定と練習機会の確保 ・体力・運動能力調査での個人結果の分析と活用 ・対外大会への積極的な参加奨励 ・指導力向上のための校内研修と校外研修会への参加 ・肥満傾向改善のための食育の実践

〈考察〉

○　「〈改訂〉運動身体づくりプログラム」を体育の授業に取り入れている小学校は，今年度100%であった。また、体育専門アドバイザーや外部講師、スポーツ笑顔の教室等の活用を図る等、各校の積極的な取組がみられた。

○　小学校では，日課表に体力づくりの時間を設け，体育の日常化に取り組んだ。また，

外部講師の活用や体育授業のＴＴなど，効果的な指導と指導力向上の取組が，各校で実施された。

○　中学校では，特設陸上部や駅伝部の練習に年間をとおして取り組んだり，選手以外の練習参加を奨励したりして，学校全体の体力向上に意識して取り組んでいた。大越中学校バスケットバール部においては、新人戦にて東北大会優勝、全国大会出場を果たすことができた。

【指標１－２②C】小学校水泳大会・陸上大会の参加者数

大会名	実施日	会　場	参加者数
第１１回市小学校水泳大会	7月22日(金)	大越つつじヶ丘プール 船引小学校プール	347名（4-6年希望者） 495名（4-6年希望者）
大１２回市小学校陸上競技大会	9月14日(水)	田村市陸上競技場	350名（全6年） ※川内小学校5名含む

〈考察〉

○　小学校水泳大会、小学校陸上競技大会への参加に向けて、各校とも個人に目標をもたせたり、計画的に練習に取り組ませたりするなど、体力向上の機会として大会を活用することができた。

○　各大会の参加率は、東部大会(大越つつじヶ丘プール)が 88.3%、西部大会（船引小プール）が 97.2%と高い参加率となった。平成 23 年に水に慣れる活動ができなかった児童も、その後の水泳学習や放課後の練習を通して泳力を高めることができた。

○　陸上については、朝のマラソンや陸上の基礎練習を年間をとおして行い、基礎的な体力と技能を身に付けることを重視した。その結果、身体への負担をかけずに陸上の競技力を向上させるとともに、けがの防止にも効果があった。

○　陸上大会では、多くの児童が自己記録を更新し、自分の設定した目標を達成することができた。（大会新記録は２人）

【指標１－２②D】食育に関する研修及び栄養教諭・栄養士の授業支援状況

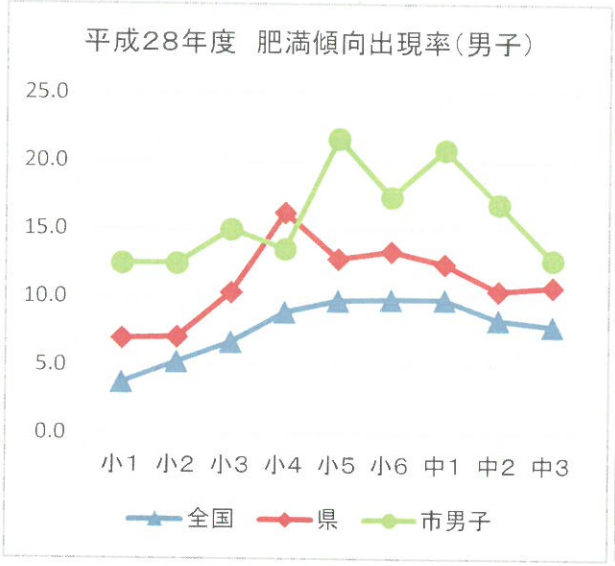
○　食育に関する研修

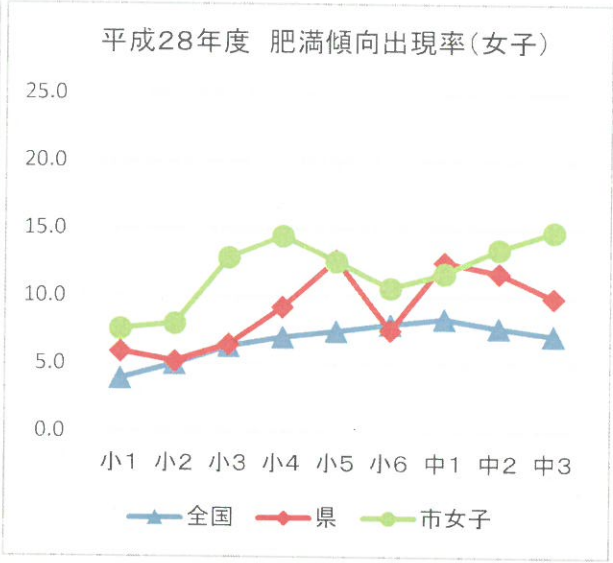
研修会等名	参加者数	内　　容
食育推進コーディネーター・学校栄養職員研修会	24名	・講演「食育推進について」 講師　田村市給食センター 志賀　敦子 様 ・協議　各校の食育実践上の課題
市小・中学校養護教諭研修会	21名	・市の健康教育の課題について ・田村市の保健事業について ・協議・情報交換：各校の健康教育の取組について

○　栄養教諭・栄養士の食に関する指導の授業支援等

対象（校種）	回　数
・市内幼稚園「食に関する指導」	３回
・市内小学校「食に関する指導」	９０回
・市内中学校「食に関する指導」	１２回
・保護者「食育講話・試食会説明」	９回

○　肥満傾向児の出現率





〈考察〉

○　各小中学校では，食育推進コーディネーターを中心に，毎日の給食指導を生かした食育や，養護教諭や給食センター栄養教諭・栄養士による「食に関する指導」などをとおして，「食べる力」「感謝の心」「郷土愛」を育成している。

○　県の食育事業である「食育専門家派遣事業」では、食に関する集団指導や個別指導、児童や保護者への講話など学校の実態に応じた学習をすることができた。さらに，県産食材を活用し，栄養バランスのとれた献立を作成する「ふくしまっ子　ごはんコンテスト」には，市内小・中学校１９校から 471 点の応募があり，大越小学校６年生が小学校上学年の部で優秀賞（県２位相当）を受賞した。

○　市児童生徒の健康課題である「う歯罹患率」については，今年度（1 月）から、幼稚園と小学校においてフッ化物洗口事業を開始するとともに、小中学校でのイエテボリ法による歯みがきや歯科衛生士による歯科指導，家庭と連携したう歯治療の推進等により改善してきている。もう一つの課題である「肥満傾向児出現率」については，全体的に県平均よりも高く，小学校高学年男子，小学校中学年女子において特に高い傾向にある。中等度肥満，高度肥満の割合も高いことから，食育の面からも，望ましい食習慣，運動を含めた生活習慣の改善にアプローチすることが必要である。

【指標１－２②Ｅ】薬物乱用防止教室及び思春期保健教室実施状況

	内　　容	実施校
薬物乱用防止教室	◇外部講師活用	小学校 11 校・中学校 7 校
思春期保健教室	◇外部講師活用	小学校 14 校・中学校 7 校

【指標１－２②Ｆ】放射線教育の実施状況

校　種	学校数	教科領域	内　容　等
小学校	１４	学級活動 理科	放射線って何だろう 放射線から身を守るために　　等
中学校	7	学級活動 理科	科学技術と人間 放射線と放射能，内部被曝と外部被曝 半減期と放射線量，食物と放射線 放射線の人体への影響，除染， 放射線と未来　　等

【指標１－３A】 計画訪問等の実施状況

	計画訪問				要請訪問				個別支援訪問				合計
	幼稚園	小学校	中学校	小計	幼稚園	小学校	中学校	小計	幼稚園	小学校	中学校	小計	
4月				0			1	1				0	1
5月				0			2	2				0	2
6月	3	12		15		4		4		28	14	42	61
7月	3	6	16	25		2	1	3				0	28
8月				0				0		1		1	1
9月		4		4	1	3		3	6	20	6	32	39
10月		13	1	14		4	1	5	3	6	3	12	31
11月	3			3		9	2	11			1	1	15
12月				0		1		1	4			4	8
1月				0		3		3		1		1	4
2月				0	1	3		4		1		1	5
3月				0								0	0
合計	9	35	17	61	2	29	7	38	13	57	24	94	193

（訪問者延べ人数）

※１　「計画訪問」は、管理運営に関する訪問または教育指導に関する訪問で、市教委が計画し、県中教育事務所に管理主事・指導主事等の派遣要請等を行って実施しているものである。

※２　「要請訪問」は、校内授業研究会、小・中連携授業研究会、小教研、中教研等の要請によるものである。

※３　「個別支援訪問」は、教育長訪問や人事評価制度に基づく訪問、または各学校の学力向上や生徒指導、障がいを持つ児童生徒のニーズに応じた指導方法、教育相談などについて該当校と改善に向けた協議等を行うものである。

〈考察〉

○　計画訪問では、市教育大綱（振興推進プログラム）の進捗状況を把握するとともに、各学校の教育活動及び施設設備等の管理全般にわたって改善・努力を要する事項等について協議及び助言・指導を行った。計画訪問を実施することで全職員により教育活動を全般にわたって見直す機会になるなど適切な学校運営を支援することができた。

○　要請訪問では、校内授業研究会や小・中連携授業研究会を中心に授業改善・学力向上へつながる積極的な支援ができた。

○　個別支援訪問では、学校がかかえている課題等の話し合いのなかで、実態に応じた具体的な対応等について助言してきた。特に、幼児児童生徒の個別のニーズに応じた支援の在り方についての相談が多く寄せられ、適切な就学指導につなげることができた。

【指標１－３Ｂ】各学校における服務倫理委員会の開催状況

1　田村市立小･中学校の服務倫理委員会の開催状況

開催回数	１回	２回	３回	４回	５回	６回	７回以上	平　均
	０校	０校	０校	０校	０校	０校	２１校	１２．３回

2　課題及び主な内容

議　題	平　均	改善された内容・対策等(主なもの)
交通事故・ 飲酒運転等	5.8 回	・通知、新聞記事等による事案の確認と問題点・対策検討 ・飲酒を伴う会合における帰宅方法等の確認の徹底 ・「３つの１０」の励行 ・通勤経路の危険個所マップ作成と安全確認
学校経理事務	2.3 回	・学校徴収金経理事務校内規定に基づく適正管理 ・会計帳簿の重層点検と外部監査の実施
体罰	4.3 回	・複数教員による指導 ・体罰防止のためのセルフチェックの活用と体罰防止への意識高揚 ・言葉による暴力、不適切な言動防止に向けた事例研究
セクハラ・ わいせつ	3.5 回	・相談窓口の設置と周知及び相談環境の整備 ・チェックシートによる未然防止の確認
個人情報管理	2.5 回	・校内規定に基づく情報管理の徹底(紙媒体・電子データ) ・外部持ち出し原則禁止（持ち出す際の管理徹底） ・通知表等への誤記入防止に向けた体制の見直しと改善
その他	・教育公務員としての適正な服務・勤務（長期休業を含む） ・服務倫理研修伝達講習 ・人権を守ることへの意識高揚 ・児童生徒との私的なメール、ＳＮＳ等の禁止 ・ストレスチェックシートの活用 ・外部講師の招聘による研修の充実 ・ＰＴＡ役員の参加による服務倫理委員会の開催	

〈考察〉

○　校内服務倫理委員会の年間開催回数は平均１２．３回となっており、各学校において重点化を図りながら不祥事防止の徹底に取り組んでいる。

○　全小・中学校において、（１）自校の課題と改善が求められる点、（２）今年度の行動目標と取組内容、（３）点検方法と時期、（４）検証を盛り込んだ不祥事根絶のための行動計画を策定し、組織をあげて不祥事防止に取り組んでいる。また、教職員一人一人の心に響く服務倫理について日常的に考える場を設定し、当事者意識を持って不祥事防止に職場全体で取り組んでいる。

○　各学校から報告された議題内容や改善された内容・対策から、職場のセーフティネットを生かした具体的な取り組みを継続して行っている。

○　今後も田村市教育委員会服務倫理対策委員会での協議内容を周知し、各学校における不祥事の絶無、人権意識の高まりを目指して積極的な支援を行う。

【指標１－４Ａ】教育振興推進プログラムにかかる各学校の達成状況

	重　点	大いに達成（８割以上）	今後改善が必要である（6.5 割以下）
項目	確かな学力	○活用力育成に向けた授業改善 ○学習規律・学習習慣（家庭学習） ○小・中連携に基づく学習支援 ○幼・小・中連携事業 ○小学生サマースクール（小） ○ＡＬＴの活用（小/中）	△小中９年間をつなぐ指導資料の活用（中） △中学校・市内高校との連携（中）
	心と体	○田村っ子のルール１０の実践 ○道徳の時間の充実（小中） ○体験ボランティア活動（小中） ○体育の授業と体育的行事の充実 ○市内小学校水泳、陸上大会への取組（小） ○食育、歯科保健、思春期事業 ○勤労体験・職場体験（中） ○立志式への取り組み（中） ○童謡・唱歌音楽祭への取り組み ○人権教育への取り組み	△心の教育資料集の活用（中）
	教職員	○授業研究会・各種研修の充実 ○不祥事根絶のための研修 ○校内相談体制の充実	△授業改善チェックシートの活用（中） △学力向上だよりの発行・活用
	学校支援	○学校だよりの発行 ○ＨＰ開設と更新 ○学校支援地域本部事業との連携	
	幼児教育	○「たむらっ子はぐくみステップ」 ○小学校入門期指導の充実	
	ニーズ対応	○田村っ子の元気を支援する事業 ○学校への適応指導の充実（Q-U 検査の活用） ○小中交流事業の充実	△サポネットファイルの活用(中)

※　各学校長は、「田村市教育振興推進プログラム点検・評価表」に基づき評価（評価欄１～８０）した後、提出する。評価欄の＊は、再掲や学校としての評価がなじまない項目である。評価は４～１の４段階とし、各学校種ごとに総計の８割以上達成項目を○、6.5 割以下の達成を●で示してある。教育委員会では、各学校の評価を通して、教育振興推進プログラムの進捗状況を把握する。

〈考察〉

○　本年度の重点として取り組んだ授業改善に向けた研修、幼小中連携事業、学習規律と学習習慣、家庭学習の点検と定着など、高い達成状況を示している。小・中教員が、授業改善に向けて授業研究に積極的に取り組んでいる。学力向上や豊かな心、健やかな身体の育成に向けて、今後も幼小中連携に基づく教育活動の充実を図っていくことが必要である。

○　授業の充実と同時に、メディア利用時間等、家庭との連携により学習の質の向上を図っていきたい。

○　各学校とも学校たより、HP を活用し、積極的に学校の様子や子どもたちの頑張りを発信している。

【指標１－４Ｂ】学校関係者評価の実施状況

〔小・中学校〕　　※学校関係者評価とは、保護者や地域の方々による評価のこと。

	学校数	自己評価の実施	実施率	自己評価の報告（設置者へ）	実施率
平成２５年度	２３校	２３校	１００％	２３校	１００％
平成２６年度	２３校	２３校	１００％	２３校	１００％
平成２７年度	２３校	２３校	１００％	２３校	１００％
平成２８年度	２１校	２１校	１００％	２１校	１００％
	学校数	学校関係者評価の実施	実施率	学校関係者評価の公表（設置者・保護者へ）	実施率
平成２５年度	２３校	２３校	１００％	２３校	１００％
平成２４年度	２３校	２３校	１００％	２３校	１００％
平成２７年度	２３校	２３校	１００％	２３校	１００％
平成２８年度	２１校	２１校	１００％	２１校	１００％

〔幼稚園・こども園（幼児教育部）〕

	園数	自己評価の実施	実施率	自己評価の報告（設置者へ）	実施率
平成２５年度	７園	７園	１００％	７園	１００％
平成２６年度	７園	７園	１００％	７園	１００％
平成２７年度	７園	７園	１００％	７園	１００％
平成２８年度	７園	７園	１００％	７園	１００％
	園数	学校関係者評価の実施	実施率	学校関係者評価の公表（設置者・保護者へ）	実施率
平成２５年度	７園	７園	１００％	７園	１００％
平成２６年度	７園	７園	１００％	７園	１００％
平成２７年度	７園	７園	１００％	７園	１００％
平成２８年度	７園	７園	１００％	７園	１００％

〈考察〉

○　全ての田村市立幼・小・中学校において、①自己評価の実施・公表②保護者など学校関係者による評価の実施と公表③評価結果の設置者への報告を達成している。

○　各学校では、学校関係者評価の実施と考察をもとに、学校運営の改善や評価項目の見直しを行い、委員からの意見を学校運営に生かしている。

・教職員の学校経営にかかる自己評価への学校評議員からの意見
・校内服務倫理委員会の協議にかかる評議員やＰＴＡ役員からの意見
・地域における子どもたちの活躍やマナー向上についての評議員からの報告
・開かれた学校にするための学校だよりや学校ホームページの改善についての意見

○　幼稚園・こども園（幼児教育部）では、各園において自己評価や学校関係者評価を実施し、その評価を年間計画に反映し、教育活動の改善を図ってきている。

【指標１－５Ａ】公立幼稚園共通カリキュラム（５歳児）



○○村立幼稚園共通カリキュラム　２年保育５歳児　　小学校への接続（アプローチ期）

期／月	第1期（4月・5月）	第2期（6・7月）	第3期（8・9・10・11月）	第4期（12・1・2月）
期の展開	年長になった喜びと自覚をもって、園生活を楽しむ時期	夏の暑う大自と戯したり、工夫したりして遊ぶ時期	クラス全体で取り組む活動や行事を通して友達と力を合わせ、協同を発揮しながら遊びを楽しんでいく時期	活動や生活に見通しや目的を持ち、その実現に向けて取り組む中で、充実感や達成感を味わう時期
ねらい	・進級した喜びと自覚をもち、進んで生活や遊びに取り組む。 ・幼児や大自と関わったり、一緒に遊んだりして親しみをもつ。 ・身近な自然に親しみ、小動物の成長・植物の生長や変化に興味をもち、思いやりやいたわりの気持ちをもつ。 ・園内のある場や物を見つけて幼児や大自と一緒に遊ぶことを楽しむ。	・園内のあることを試したり工夫したりしながら取り組み、遊びを広げていく。 ・自分の思いを伝えたり、相手の表現を受け止めようとしたりしながら遊びを楽しむ。 ・夕の思いを豊かにし、積極的な生活をしようとする。	・大自と一緒にいろいろな活動遊びに取り組み、遊びや生活を進める楽しさを十分に味わう。 ・自分のめを発揮したり、大自の良さを認めあったりする。 ・大自と 考えを出し合い共通の目的に向かって遊びや生活を進める楽しさを感じる。 ・季節の移り変わりに気付き、興味をもち、遊びに取り入れ楽しむ。 ・公共の施設を利用したり利用したりして自分にとって環境の深い関であることを知る。 ・行事を通して園生に親しむ。	・大自と関め合い、見通しをもって遊びや表現に取り組む中で、充実感や達成感を味わう。 ・健康への関心や意欲を持って園生活を楽しむ。 ・一人一人が見通しをもって遊びや活動に取り組み、充実感を味わう。 ・心を通わせながら、それぞれのよさを認め合う大自関係を作る。
内容 （☆は資質につながる基礎）	・戸外で体を動かして遊ぶ。 ・園生活に必要な決まりを理解し進んで守ろうとする。 ・幼児や大自と一緒に、手をな遊びを楽しむ。 ・年上児と かかわったり世話をしたりする。 ・当番の仕方がわかり、大自と一緒にやってみようとする。 ・身近な自然に興味や関心をもち、見たり触れたりして遊ぶ。 ☆ 幼児や大自の話を聞いたり自分の思いを伝えたりする。 ☆ 絵本や紙芝に親しみ、表現をもって見たり聞いたりする。 ・音楽に親しみ、大自と一緒に歌うことを楽しむ。 ・いろいろな素材に親しみ、工夫して遊んだり、作ったりする。 ☆ 数えたりそろえたりして、数量や図形などに対する感覚を豊かにする。 ☆ 大事、数などを取り巻く事象や関心を深める。	☆ 水や砂、土などで試したり工夫したりして遊ぶ。 ・プール遊びのきまりを守り、安全をもって遊泳する。 ・身近な自然や季節感を感じて、生活に関心をもったり、命の大切さに気付いたりする。 ☆ 話したいことや疑問に思ったことを積極的に伝えようとする。 ☆ 自分の思いを伝えたり相手の思いを受け入れたりする。 ・自分から気付いて手の届く範囲の掃除をする。 ・自分の体に関心をもち、健康な生活に必要な習慣や態度を身につける。 ・自分なりに目標をもって継続することができるように強弱やリズム遊びの楽しさを経験する。 ☆ 自然に触れる活動を通して自然とや感覚とを深め、発見したり共感したりする。	・いろいろな運動遊びの中で十分に身体を動かしたり競い合ったりすることを楽しむ。 ・思いきり体を動かしたり、跳ぶ・乗り越したりするなどまざまな運動を味わう。 ・大自や年上児の関係を深め、親しむ。 ☆ 考えたり思ったりしたことを自ら表現したり、友達と 遊びを進める。 ・数量や文字などの多さや大きさに関心をもつ。 ・簡単な規則や順序を理解に役立、工夫しながら目標に向かったり、作ったりする。 ☆ 大自と共通の目的をもって遊びを進める中で、正しい考えを出し合い、共通理解を深める。 ・大自と協同に関わったり協力したりして遊びながら、相手の考えに気付き、よさを認め合う。 ・クラスの活動に共通目標を持って取り組み、充実感や達成感を味わう。 ※ 物語などからイメージを広げ、夢等や思いを表現する。 ・身近の楽しさやリズムの楽しさを感じて表現する。 ・共通の目的に向けて考えたり、協力に取り組んだりする。 ☆ 公共の場でのマナーとルールを守り楽しく遊ぶ。 ☆ 自然や自然、物や物から興味に対する関心を持つ。	・自分の考えたルールを大自と伝え合いながら遊びを進める。 ・自分なりの課題をもって、試したり挑戦したりすることで力を伸ばす。 ・自らの経験を夢び、身近な人への感謝の気持ちをもつ。 ・健康な心身の発達に自覚をもつ。 ☆ 基本習慣や衛生習慣などを楽しみ、自信、誇り、大事などを取り入れて遊ぶ。 ☆ 身近な物や数などの考えや、感覚、認識などを豊かに感じる楽しさを味わう。 ・年上児と共に、目標に向けた活動を夢り上げていく。 就学に向けて共通に体験させたい遊び等 ☆ 神楽「くんしんクリーズ」「まめうし」 ☆ 夢　「トレミの森」「とんぼ」 ☆ 学習び「オロロ川」「まんまのひも」「やきやのやきい」 ☆ 表現遊び「ジャケン列車」「もろじゃうがりはいこうよ」 「トゥピー」「トゥリトル」 ☆ 昔遊びを楽った遊び　「大の陣取り」
環境構成及び援助	・子ども一人一人の興味や生活、背景などをしっかり把握し、安全して遊びに取り組めるよう時間割を工夫していく。 ・年長児になった喜びを共感し、進んで活動しようとする意欲を受け止める。 ・身近な事の音声に目が向けられるように、園内外の音楽に触れる機会を多くもつ。	・夏の休中、試したり工夫したりできる時間や場を設ける。 ・子どもの遊びに共感したり認めたりしながら、友達と関わる楽しさを味わえるようにする。 ・自分の健康や体について関心をもてるよう援助する。 ・公共の施設で遊ぶ時のの約束を守って楽しく遊べるように言葉をかけ援助していく。	・活動内容や遊びへと発展するような基本や環境を身近に用意し、十分に安全実施をする。 ・具体的なと言語化が出来できるような遊びを取り入れる。 ・自分なりの目的を持って遊び込を認めたり、認めたりして、次の遊びへの意欲につなげていく。 ・遊びの発展や変化に対応できるよう、環境や材料などを豊富に準備する。 ・遊びの中で試行錯誤を、自分たちで解決できるよう援助する。 ・友達からも認められるような機会を作り、クラスの中での存在を知らせる。 ・公共の施設で遊ぶ時の約束を守って楽しく遊べるように言葉をかけ援助していく。 ・行事を通して園師に祝し、目標に親しみを持つようにする。	・活動遊びに意欲的に取り組み、持手の力を発たり、切けられたりして、時間意識を持って遊ぶ楽しさを感じられるようにする。 ・自分なりの課題をもって挑戦したりする姿を認めたり、展開例じを助言と一緒に進んだりする。 ・一人一人の成長を認め、クラスの中で自分のめを発揮し、遊びを進展できるように見守る。 ・木や草などに目がわって遊び、季節の不思議さを感じとっていけるようにする。 ・かるた、すごろく、トランプなどを用意しておき、友達や、大事に興味が持てるようにする。 ・心の豊かさや思いやりの心などが感じとっていけるような絵本を取り上げ　話し合うことで互いの成持ちに共感したり、つながりを深めたりできるようにする。 ・健康への関心を高らませ、目標をもって園生活が過ごせるように、活動への課題を捉えていく。 ・学び方と共に、一年間の活動を振り返りながら、楽しかった思い出や伸長くなれた喜びを感じられるようにする。
行事	・入園式　・始業式　・誕生会　・避難訓練 ・親子遠足　・交通教室　・体育の日	・体育の日　・避難訓練　・七夕会　・誕生会 ・参観日懇談	・歌と合奏会　・運動会　・秋の遠足　・避難訓練式　・交通教室・体育の日 ・読書週間式　・人形劇鑑賞会　・避難訓練　・発表会　・誕生会	・豆まき　・体育の日　・ひなまつり会　・卒園式 ・誕生会
保小の連携		・小学生との交流会	・授業参観　・小学生との交流会 ・支援の必要な状況についての情報交換をする。	・一日入学　・小学生と一緒に給食を食べる、スタートカリキュラムの説明会を持つ。 ・入学後にスムーズな小学校生活が送れるよう、行き会わせをもつ。
家庭・地域との連携	・家庭での親子や兄弟姉の思いを聞いたり、園のようなと園生活の親子を伝えたりすることで、発達理解を深め、解決しやすい環境を構成する。 ・当番時の対応について園・学校・家庭・地域が共通理解し、子どもを守ろうとする意識を高める。 ・園行事や平常で支援協議人の参加を通して幼児期の成長を知らせたり、保護者同士の交流を深めたりする。	・地域見守り活動の生活習慣を見直し、挨拶で規則正しい生活ができるよう保護者に必要する。 ・園行事や平常で支援協議人の参加を通して幼児期の成長を知らせたり、保護者同士の交流を深めたりする。	・活動量が多くなるので、家庭での睡眠習慣に留意してもらう。 ・社会的行事を通して、地域の人々と触れ合えるように努を力める。 ・園内掲示などで、幼児の成長を保護者と連絡し合い、今後の課題について話し合う。 ・小学生や地域の人々との関わりを広げるとともに、感染症について理解してもらう。 ・インフルエンザなどの感染症が流行しやすい時期のため、家庭でも手洗の習慣がつくように配慮してもらう。	・園生活の締めくくりの時期をと多ともに家族に通じるよう、配慮してもらう。 ・就学への心構えや準備について話をし、食事や睡眠、排便などの大切さを理解する。 ・家庭ぶを通して、一人一人のよさや伸長した姿を保護者・地域の人々とともに喜び合う。
支援課題				

【指標１－５Ｂ】市内公立・私立幼稚園におけるたむらっ子はぐくみステップの達成状況

		4歳児	達成度	5歳児	達成度
自分のこと	名前・家族	自分の名前や家族のことがわかる。	100%	自分の名前や家族の名前を言うことができる。	98%
	あいさつ	「おはようございます」「さようなら」が言える。	98%	元気にあいさつできる。	92%
	返事	自分の名前を言われたら返事をする。	98%	自分の名前を言われたら元気よく返事をすることができる	97%
	服・着脱	自分で服を着たり脱いだりする。	99%	自分で服を着たり脱いだりたたんだりすることができる。	96%
	準備・片付け	自分のものと友達のものとを区別する。	98%	自分で使うものを準備し片付けることができる。	82%
	排泄	一人でトイレに行ける。	95%	上手にトイレを使うことができる。	95%
食事	分量・食べ方	分けられたものは苦手なものでも食べようとする。	65%	分けられたものを残さず食べようとする。	73%
	はしの使い方	はしを持って食べる。	99%	はしを正しく持って食べることができる。	83%
	手洗い	食事の前に手を洗う。	76%	食事の前に進んで手を洗うことができる。	84%
	食器片付け	食事の後は、片付けをする。	75%	食事の後は自分で片付けをすることができる。	84%
	歯磨き	食後は歯磨きやうがいをする。	85%	食後はいつも進んで歯を磨くことができる。	68%
かかわり	友達と遊ぶ	友達と遊ぶ。	98%	友達と楽しく遊ぶことができる。	100%
	話す	先生や友達、家族に自分のことを話す。	97%	先生や友達、家族に自分の考えを話すことができる。	89%
	聞く	先生や友達、家族の話を聞く。	77%	先生や友達、家族の話を素直に聞くことができる。	84%
	協力・思いやり	友達といっしょに活動する。	97%	友達を見て、困っているときには助けようとする。	93%
	お手伝い	お手伝いをする。	93%	進んでお手伝いをする。	91%
	約束	きまりを守る。	69%	きまりの大切さを知り、きまりを守る。	74%

〈考察〉

○　「はぐくみステップ」をもとに定期的に子どもの成長を見つめることで、幼稚園・こども園・保育所と保護者が共通理解に立って、望ましい生活習慣の形成を図ろうと意識することができた。

○　あいさつや返事、衣服の着脱など身辺の自立については、9 割を超える家庭で達成されていると感じている。一方、食事や歯磨きなど健康課題に関する項目では、やや低い傾向にある。う歯予防と肥満傾向の解消は市の重要課題であるため、今後も家庭への啓発を図りながら、園と家庭が協力して取り組む必要がある。

【指標１－５C】市内保育所共通カリキュラム（３歳児）

保育目標		○豊かな情操教育を通して、友達との関わりを深め、集団で活動することを楽しむ。			所長	主任	担任
年間区分		Ⅰ期(4月～6月)	Ⅱ期(7月～9月)	Ⅲ期(10月～12月)	Ⅳ期(1月～3月)		
ねらい		○安心して生活できる場において、積極性や自発性が育つようにする。 ○自由に活動できる環境設定をして、保育士等との信頼関係で快適に生活できるようにする。	○伸び伸びと好きな遊びを楽しむ。 ○友達と関わって遊ぶ楽しさを知る。 ○身近な自然に触れ、見たり遊んだりする。	○自発活動の場を十分に与え、成就の喜びを持たせると共に自立の態度を促す。 ○友達との関わりを楽しみながら、言葉で伝え合って遊ぶ。 ○友達と目的に向かって意欲的に取り組む。	○いろいろな活動に自分なりの目的をもって繰り返し取り組み、満足感や達成感を味わう。 ○自然の変化に興味や関心をもつ。 ○進級することに期待をもって生活する。		
養護	生命	○一人一人の健康状態や発達状態を把握し、適切に対応し自ら気付けるようにする。 ○子どもに健康や安全の大切さを知らせ、安全な環境作りに努める。	○生理的欲求を満たせるよう、個々の生活リズムに合わせて快適な生活ができるようにする。 ○体調を把握し、自分では体の異常を訴えられるようにする。	○基本的生活習慣や態度を身につける。 ○一人一人の子どもが安心して、自分の気持ちを表現し友達と関わって遊ぶ。	○子どもの発達を見通し、全身を使う運動を取り入れ、個々にあった活動ができるようにする。		
	情緒	○日々の生活に安心感を持ち、伸び伸びと友達と関わっていけるようにする。	○子ども同士の遊びを豊かにし、友達との関係の中で徐々に自分を発揮できるようにする。	○やりとりを重ねる中、お互いの良さを認めあえるように集団で一人一人の良さを生かしていく。 ○一生懸命やった後の満足感や達成感を味わう。	○与えられた役割を責任持って果たすことで達成感を味わえるようにする。 ○遊ぶ時と、集中して取り組む時のけじめをつける。		
教育（◎は教科につながる基礎）	健康	**◎戸外で体を動かし、伸び伸びと遊ぶ。** ○身近な環境に興味を持って関わり、遊びを体得していく。	○活動と休息のバランスのよい生活リズムに心地よさを感じる。 ○プール遊びを通して健全な心身づくりをする。 **◎水・砂・泥などで、体全体を使って思いっきり遊ぶ。**	○友達と目的に向かって取り組む中で、クラスの友達とのつながりを感じたり、自分なりの力を発揮する。 **◎友達や保育士と一緒に運動したり、体を動かしたりして、ルールのある遊びを楽しむ。**	○衛生的で安全な場所で、思い切り遊べる心地よさを知る。 ○五感で感じながら、遊ぼうとする。		
	人間関係	○仲間といることの喜びや楽しさを感じながら、つながりを深める。 ○保育士や友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じ喜んで登所する。	○友達の良さに気づき、一緒に活動する楽しさを知る。	○自分を十分に発揮したり友達と協調して生活したりすることを楽しむ。 ○自ら挨拶をすることでコミュニケーション能力をつける。	○生活や遊びの中で、きまりやルールの大切さに気づく。 ○友達と楽しく活動するためにルールや約束を守ろうとする。 ○友達と関わる中で相手の気持ちに気づく。		
	環境	○自然など身近な環境への関わり方や遊び方を体験していく。	○様々な素材に興味をもち、遊びに取り入れる。 ○身の回りのことを自分でやろうとする。	○目的を持って行動し、造る、描く、試すことで想像力を豊かにしていく。 ○自然や美しさや変化に気づき、自然物を使って遊ぶ。	**◎正月遊びなどを通して、数量や図形、文字に親しむ。**		
	言葉	○経験したことや思ったことを話し、言葉で伝える楽しさを味わう。 ◎保育士の話や絵本、紙芝居などを聞く楽しさを知る。	○友達同士、言葉で伝え合いながら遊びの状況を共に理解しようとする。 ○友達と関わる楽しさやトラブルを通して相手の思いに気づく。	**◎遊びの中で感じた面白さや発見を、友達に伝えながら遊ぶ。** **◎自分のしたいことを友達に言葉で伝える。** ○「ごめんなさい」「ありがとう」が素直に言えるようにする。	○会話を通し、友達ということの楽しさを感じるようになり、つながりを深める。		

【指標１－５D】「平成２８年度田村市小学校入門期指導の手引き」

編集：田村市保・幼・保連携推進委員会

配付：市内小学校１年生全学級分、各小学校、各幼稚園



「平成28年度田村市小学校入門期指導の手引き」抜粋〉

参考：施策指標の達成状況

【指標１－６A】 特別支援教育にかかる電話相談、訪問等による支援

支援等	主な相談内容
電話による相談等	○ 特別な支援を要する児童等への支援の在り方 ○ 保護者との教育・就学相談 ○ 学校等との連携
家庭及び関係機関への訪問等	○ 適正な就学指導 ・家庭訪問による保護者との相談 ・養護教育センター、特別支援学校、医療機関等訪問 ○ 保健福祉部との連携 ・ケース会議等
学校訪問（巡回相談）	○ 個に応じた個別指導、支援のあり方 ○ 他の児童等とのかかわり方 ○ 保護者の子育てにかかわる相談
来庁による相談	○ 子育て支援 ○ 学校との連携 ○ 保護者との教育・就学相談

〈考察〉

○ 学校からの相談は、個別的な支援を要する児童等への具体的な支援のあり方が主な内容であり、専門的な知識をもって対応にあたることが求められている。

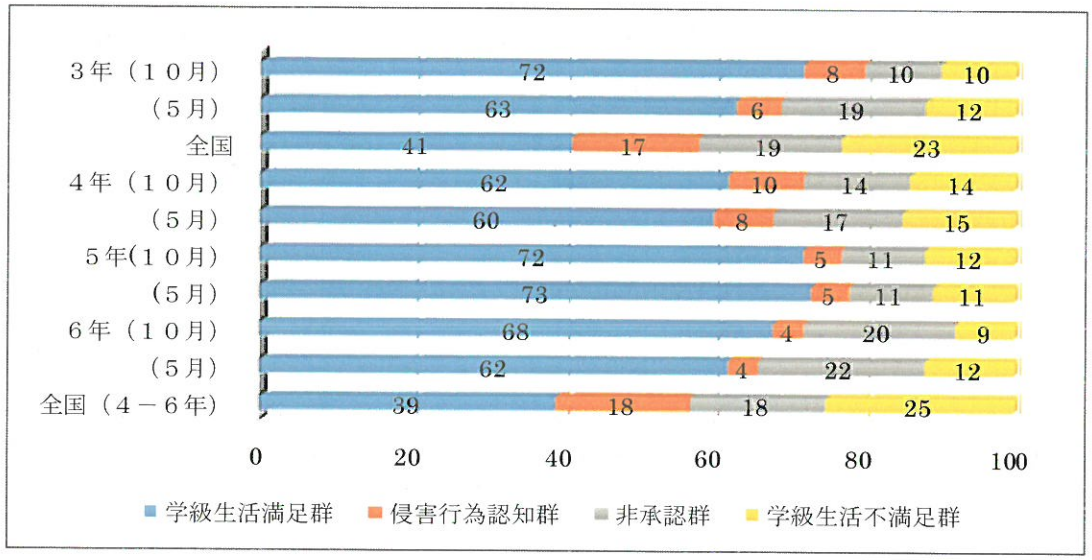
○ 就学指導については、年度当初からの早めの相談が増えている。来庁などによる保護者との就学相談や学校見学などの訪問を含め、就学に対する保護者の意識が高くなっている。保健課の乳幼児育成指導事業「すくすく教室」との連携により、早期からの就学相談の体制が確立したことによるものと考えられる。

○ 今後も、関係機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携するとともに、相談がより効果的になるように教員研修も充実させていく必要がある。

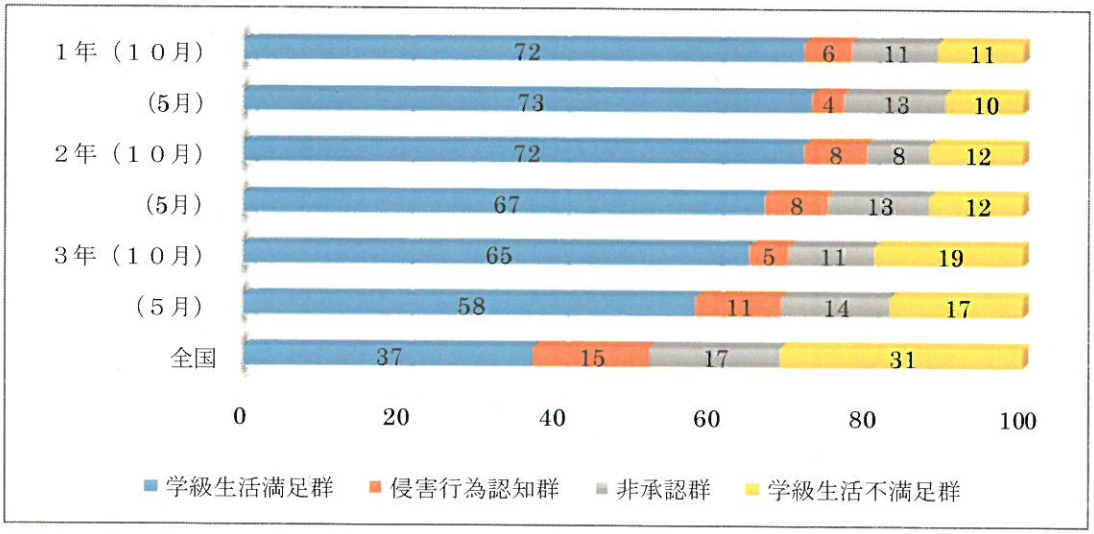
【指標１－６Ｂ】　Ｑ－Ｕ検査による学級満足度尺度及び学校生活意欲プロフィール

（１）学級満足度尺度（５月→１０月の変容）

○小学校調査結果

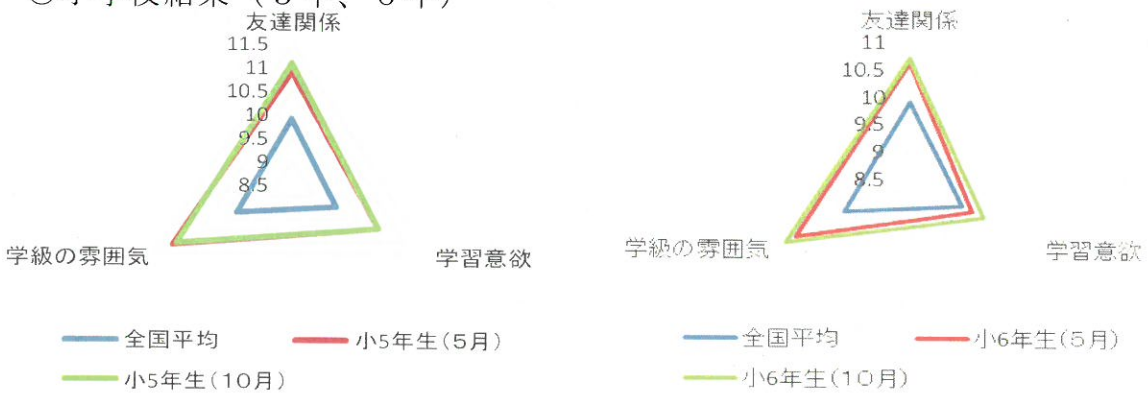


○中学校調査結果

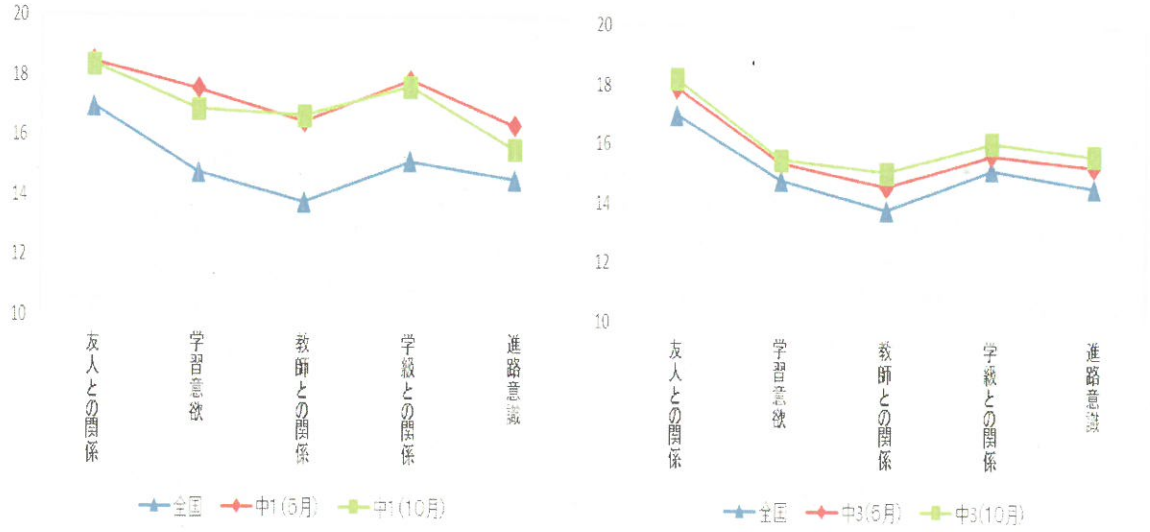


（２）学校生活意欲プロフィール

○小学校結果（５年、６年）



○ 中学校結果（１年、３年）



【 Ｑ－Ｕ検査（平成２８年度２回目）　結果の概要 】

○　市内の小・中学校の学級生活への満足度は，第１回目の検査(5 月)では小学校３年生から中学校３年生までの平均で 65.3%であった。第２回目の検査(10 月)では，平均で 69.1%と満足度が上がっており，この値は全国平均と比較して 30 ポイント高い。各学級において一人一人の存在が認められ，かつ学級のルール(学習規律)が確立しているため，自分の居場所があり，居心地のよさを感じている児童生徒が多いと思われる。意欲的に学校生活を送る土台が形成されている学級が多いと言える。

○　小・中学校において「学級生活満足群」の割合が上がったのは，主に非承認群の児童が減少したことによる。学級のルールが確立し，教師や友達から認められ、安心して生活できる児童が増えていることが伺える。このことは、第１回目の検査を受け，学級の実態を分析し、一人一人の児童生徒に対し個別支援をしたり，学級経営の方針を再確認したりしたことが「学級生活満足群」の割合の増加につながったものと考えられる。

○　「学校生活意欲」についても市内の小・中学校は全国平均よりも高い。このことは、各学校・学級で児童生徒の学校生活が充実できるよう、児童生徒の心に寄り添った配慮ある対応を積み重ねてきたことで、児童生徒一人一人が活動に意欲的に取り組み、互いに協力し合える集団づくりにつながっていることも、これらの結果に現れていると考えられる。

○　今後も，Ｑ－Ｕ検査を活用して，教育相談のＰ（学級集団の分析，支援計画の作成）→Ｄ（支援策の実施，授業改善）→Ｃ（学級集団の分析，支援策の効果検証）→Ａ（再支援策の実施）サイクルを学校全体で機能させることが必要である。また，１０月の検査において，学級生活不満足群，非承認群、侵害行為認知群となった児童生徒の支援をするとともに，親和的な集団の中で，一人一人が認められるような学習を構築していくことが必要である。

【指標１－６Ｃ】教育相談体制におけるＳＣ，心の教室相談員等の派遣実績

(1)緊急スクールカウンセラー派遣実績

派遣小中学校	派遣日数	派遣時間	相談件数	
大越小学校	30	180	151	
古道小学校	30	180	86	
岩井沢小学校	30	180	85	
船引小学校	30	180	152	
滝根中学校	30	180	103	
大越中学校	30	180	101	
都路中学校	30	180	90	
常葉中学校	30	180	304	
船引南中学校	30	180	121	
船引中学校	30	180	184	
移中学校	30	180	62	※相談件数は1月末現在

(2)心の教室相談員派遣実績

中学校	派遣日数	派遣時間	小学校	派遣日数	派遣時間
滝根中学校	51	300	滝根小	3	12
大越中学校	76	300	大越小	3	12
都路中学校	76	300	古道小、岩井沢小	6	24
常葉中学校	87	350	関本小、常葉小、西向小	9	36
船引南中学校	61	300	芦沢小、船引南小	6	24
船引中学校	146	800	船引小、美山小、瀬川小、要田小	12	48
移中学校	62	300	緑小	3	12

〈考　察〉

○　緊急スクールカウンセラーが配置されている小・中学校では，不安や悩みを抱える児童生徒に対し，一人ひとりに寄り添って相談を実施し，担任等と連携して不登校の予防や学校不適応の解消に貢献した。また，校内の生徒指導委員会に加わり，専門的な立場から，児童生徒理解や適切な支援の仕方についてアドバイスをいただいている。また，不安を抱える保護者についても，ていねいに対応していいただき，学校との信頼関係を深めることができている。

○　心の教室相談員は，主に中学校において，学校生活や友人関係に不安を抱える生徒，相談室登校の生徒等に対し，信頼関係を築きながら適切に関わり，不安や悩みの解消に努めている。また，不登校傾向の生徒に対しては，スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を図りながら，担任を支えてチーム支援に努めている。小学校においては，中学進学への不安や悩み等の相談や，小学校教員との情報交換を通して，事前に支援の必要な児童を把握して，中１ギャップの解消を図っている。

○　緊急スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心の教室相談員の役割を学校全体で共通理解し，それぞれの立場でどのような支援ができるか，ケース毎に明らかにしていくことが必要である。

田村市の将来像　「あぶくまの人・郷・夢を育むまち ～はつらつ高原都市 田村市～」
田村市教育委員会基本方針　「未来を担う人づくりのまち」

地域が育て 地域で育つ市民参加の教育

■は今年度重点施策

２ 生涯学習の充実

① 公民館の活性化を図ります。

(1)学級講座の充実

■市民のニーズを捉えた学級講座の企画
- ○学級講座の評価と再検討
- ○学習ニーズアンケート調査の実施と結果の共有
- ○共同開催する学級講座の企画

(2) 公民館運営の活性化

□市民に愛される公民館づくり
- ○管理運営体制の検証
- ○市民に愛される公民館の管理運営方法の検討

② 放課後子ども教室事業を推進します。

(1) 放課後子ども教室推進

□放課後子ども教室の円滑な運営
- ○実施校の継続

■コーディネーター及び指導員の育成と確保
- ○コーディネーターの育成
- ○指導員の育成
- ○指導員の確保

□放課後子ども教室の周知及び広報
- ○教室だより、めだかの学校通信の発行

③ 学校支援地域本部事業の推進を図ります。

(1) 学校支援地域本部事業の円滑な実施

□学校支援地域本部事業の推進
- ○学校支援地域本部会議及び地域教育協議会の開催
- ○未実施地域での事業開始に向けた検討

■地域の人材活用体制の整備
- ○コーディネーターの育成
- ○ボランティアの確保と有効活用,資質向上

□学校支援地域本部事業の周知及び広報
- ○学校支援地域本部だよりの発行

④ 図書館の機能を充実します。

(1) 図書館の機能充実

■利用促進に向けた図書館資料及び機能の充実
- ○ニーズに合わせた蔵書の確保
- ○貸出予約の利便化
- ○年代別コーナーの設置
- ○自主事業の充実
- ○図書ボランティアの育成

□子どもの強く生きぬく力を育むための読書活動の推進
- ○第二次田村市子ども読書活動推進計画の実践
- ○子どもが利用しやすい館内環境の整備
- ○学習支援機能の充実
- ○子どもの読書活動にかかわる関係者の資質向上

□図書館事業の周知
- ○市民等への広報

３芸術文化活動の推進

① 芸術文化活動の推進を図ります。

(1)多様な芸術文化活動への支援

□芸術文化活動への支援
- ○芸術文化団体への支援
- ○各地区文化祭・芸能祭への支援

(2)文化センターを活用した芸術文化の提供

□質の高い自主文化事業等の実施
- ○文化センター運営委員会の開催
- ○小中学校芸術鑑賞教室の開催
- ○市民による身近な芸術文化の提供
- ○市民等への広報

４文化財の保護と継承

① 文化財の保護と継承を推進します。

(1) 地域に残された文化財の保存と継承

■文化財の保存と継承
- ○文化財保護審議会の開催と県文化財保護指導者研修会への参加
- ○指定文化財の防災訓練と防火査察の実施
- ○指定文化財の周知
- ○民俗文化の保存と伝統芸能の継承
- ○田村市史シリーズの継続発行

(2)地域の歴史を学び親しめる施設の整備

□歴史民俗資料館の活用と文化財資料館の整備
- ○歴史民俗資料館の活用促進
- ○文化財資料館の整備



５スポーツ･レクリエーション活動の推進

① スポーツ振興の推進を図ります。

(1) 幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動の推進

■運動公園内の施設によるスポーツ交流人口の拡大
- ○県内外からの高校、大学の合宿誘致
- ○県レベル各種大会の誘致
- ○施設のＰＲ
- ○クロスカントリーコースの利活用

□田村富士ロードレース大会への参加者の拡大と推進
- ○学校・スポーツ団体との連携による参加者の拡大

□ふくしま駅伝の参加並びに記録への挑戦
- ○質の高い練習、スタッフの確保
- ○田村市チーム運営の委託契約

(2)スポーツ・レクリエーションを通した交流の推進

□小中学生を対象としたスポーツ大会・講習会等の開催
- ○ソフトボール大会、駅伝大会等の開催
- ○スポーツ教室の開催

(3)活動を支える充実した指導体制の確立

□指導者対象の研修会、講習会の開催
- ○スポーツ推進員研修会・講習会
- ○スポーツ講演会の開催

［田村市の教育10のキーワード］

①安全・安心（危機管理）
②共生と連携と評価の時代（教育の道しるべ）
③実践と点検・検証（教育活動の原理原則）
④真実は相手が理解してはじめて真実になる（説明責任・結果責任）
⑤心身を養えば学力は伸びる（知・徳・体のとらえ）
⑥基礎・基本（学力向上の基盤）
⑦当たり前のことを当たり前に思って当たり前に行動する（行動基準）
⑧感動と共感と感化（情操の育成）
⑨愛郷心（語り継ぐ田村の教えと郷土への誇り）
⑩市民参加の教育づくり（地域連携の強化と地域教育力の向上）

２　生涯学習の充実

施策目標２－１「公民館の活性化を図ります。」

生涯学習に対する市民の意欲向上を図るため、それぞれの地域における多様なニーズを捉えた特色のある学級講座を企画するとともに、市民同士の交流機会を拡充するため、各公民館共同での学級講座開催や地域外市民の参加も検討するなどして、公民館の活性化を図ります。

また、誰もが気軽に訪れることができ、身近に利用しやすい市民に愛される公民館づくりを推進します。

指標２－１Ａ：市民のニーズを捉えた学級講座の企画

・学級講座の評価と再検討
・学習ニーズアンケート調査の実施と結果の共有
・共同開催する学級講座の企画

指標２－１Ｂ：市民に愛される公民館づくり

・管理運営体制の検証
・市民に愛される公民館の管理運営方法の検討

施策目標２－２「放課後子ども教室事業を推進します」

子どもたちが学年の垣根をこえて、共に遊び・学びあうことにより、心豊かで健やかに育まれる環境を提供するために、地域の方々の協力を得て見守りを行うとともに、安全・安心な居場所を設置し、健全な児童の育成を行います。

指標２－２Ａ：放課後子ども教室の円滑な運営

・実施校の継続

指標２－２Ｂ：コーディネーター及び指導員の育成と確保

・コーディネーター育成
・指導員の育成
・指導員の確保

Ⅳ　点数評価の結果

指標２－２Ｃ：放課後子ども教室の周知及び広報

・教室だより、めだかの学校通信の発行

【参考資料】

①放課後子どもプラン運営委員会事業報告

開催期日	開催場所	事業名	内容	備考
7月17日(土)	田村市役所	田村っ子ゆめまつり2016	名義後援,イベント協力	事務局対応
6月3日(金)	田村市役所	第1回運営委員会	委員委嘱,平成28年度事業計画など	委員6名出席
6月7日(火)	郡山公会堂	学校支援実践研修会	講演,情報交換	ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ2名出席
7月8日(金)	美山小学校	県中教育事務所放課後子ども教室訪問	美山めだかの学校活動状況視察の対応	事務局対応
7月11日(月)	関本小学校	県中教育事務所放課後子ども教室訪問	関本めだかの学校活動状況視察の対応	事務局対応
9月28日(水)	滝根小学校	県中教育事務所放課後子ども教室訪問	滝根めだかの学校活動状況視察の対応	事務局対応
10月3日(月)	須賀川市東公民館	放課後子どもプラン県中地区研修会	講演,講習（レクリエーション教室）,情報交換,教室見学	安全管理員等2名出席
10月4日(月)	田村市役所	第2回運営委員会	平成28年度事業進捗状況報告など	委員7名出席
10月4日(月)	田村市役所	田村市社会教育関係者合同研修会	県中教育事務所・猪狩氏による講話	委員6名出席
11月25日(金)	船引公民館	放課後子ども教室ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ・指導員等情報交換会	講演,情報交換	安全管理員等35名出席
3月16日(木)	各学校	広報誌「めだかの学校通信」Vol.19発行	広報誌の発行（学校を通じて各戸へ配付）	
3月22日(水)	田村市役所	第3回運営委員会	平成28年度事業報告　など	

②放課後子ども教室推進事業（めだかの学校）実施報告

○めだかの学校実施状況

	名　　称	開催期間	開催日数	全児童数	登録児童数(1月末現在)	参加率	延参加児童数(1月末現在)
1	滝根めだかの学校	H28年4月 7日 ～ H29年3月10日	182 日	215 人	171 人	80%	17,488 人
2	関本めだかの学校	H28年4月11日 ～ H29年3月15日	184 日	61 人	60 人	98%	5,134 人
3	西向めだかの学校	H28年4月13日 ～ H29年3月 8日	107 日	57 人	57 人	100%	2,610 人
4	芦沢めだかの学校（芦沢幼稚園含む）	H28年4月13日 ～ H29年2月24日	178 日	57 人	55 人	96%	4,282 人
5	船引南めだかの学校（船引南幼稚園含む）	H28年4月13日 ～ H29年3月13日	190 日	116 人	83 人	72%	6,849 人
6	美山めだかの学校	H28年4月19日 ～ H29年3月 6日	175 日	62 人	62 人	100%	4,707 人
7	緑めだかの学校（緑幼稚園含む）	H28年4月11日 ～ H29年3月10日	175 日	56 人	56 人	100%	6,398 人
8	瀬川めだかの学校	H28年4月13日 ～ H29年3月22日	195 日	32 人	32 人	100%	2,157 人
9	要田めだかの学校	H28年4月12日 ～ H29年2月28日	162 日	47 人	47 人	100%	3,824 人
		計	1,548 日	703 人	623 人	89%	53,449 人

施策目標２－３「学校支援地域本部事業の推進を図ります」

子どもたちの健全育成を図るため、地域全体で学校を支えることができるよう、学校と地域との連携体制を構築し、学習支援活動や登下校の安全確保のための活動等、地域住民による積極的な学校支援の取り組みを促進し、教員の子どもと向き合う時間の増加や住民等の学習効果の活用機会の拡充及び地域教育力の活性化を図ります。

指標２－３Ａ：学校支援地域本部事業の推進

・学校支援地域本部会議及び地域教育協議会の開催
・未実施地域での事業開始に向けた検討

指標２－３Ｂ：地域の人材活用体制の整備

・コーディネーターの育成
・コーディネーターの確保と有効活用、資質向上

指標２－３Ｃ：学校支援地域本部事業の周知及び広報

・学校支援地域本部だよりの発行

Ⅳ　点数評価の結果

【参考資料】

本部会議実績

事　業　名	実　施　日	場　所	内　容　等
第1回各地域教育協議会	4月～5月	各公民館等	委嘱状交付
第1回田村市学校支援地域本部会議	5月31日（火）	田村市役所	H28事業計画，評価等に係る協議，情報交換等
第1回田村市コーディネーター・担当者情報交換会	5月31日（火）	田村市役所	関係者による情報交換（12名出席）
第1回学校支援実践研修会（県主催事業）	6月7日（火）	郡山市郡山公会堂	講演，事例発表，情報交換等（6名出席）
田村市学校支援コーディネーター情報交換会	11月7日（月）	滝根公民館	実績報告，情報交換等（5名出席）
第2回学校支援実践研修会（県主催事業）	11月16日（水）	滝根小学校	支援活動参観，事業概要説明，事例発表等（9名出席）
第2回田村市学校支援地域本部会議	11月24日（木）	田村市役所	H28事業進捗状況報告，評価等に係る協議，情報交換等
第2回田村市コーディネーター・担当者情報交換会	11月24日（木）	田村市役所	関係者による情報交換
第3回田村市学校支援地域本部会議	3月21日（火）	田村市役所	H28事業結果報告，事業評価，情報交換等
第3回田村市コーディネーター・担当者情報交換会	3月21日（火）	田村市役所	関係者による情報交換

支援実績（常葉・滝根・大越・船引地区合計）

種別	内容	延べ実施回数	ボランティア延べ人数
学習支援ボランティア	学習支援（書写・調理実習・体育・ミシン・郷土史など，卓球・将棋・木工クラブなど，校外学習引率など）	64 回	162 名
体験活動ボランティア	体験活動支援（しめ縄づくり，野菜栽培・収穫，郷土食の調理実習，和太鼓など）	12 回	46 名
スポーツボランティア	部活動支援（野球・卓球・バレーボール・ソフトボール・ソフトテニス・剣道）	139 回	155 名
図書ボランティア	図書支援（読み聞かせ，貸出補助，図書整理，ポップづくり，壁面飾りつけなど）	114 回	183 名
安全指導ボランティア	安全指導支援（登下校時の見守り，交通安全指導，防犯教室，こども園運動会時の見守りなど）	528 回	532 名
クリーンボランティア	環境整備支援（校庭整備・除草，植木剪定，花壇整備，修繕など）	26 回	111 名
イベントボランティア	学校行事支援（ゲートボール教室，運動会等イベント時の支援，授業参観日等の見守りなど）	12 回	41 名
その他のボランティア	その他の支援（民話・語りべ）	1 回	1 名
	合計	896 回	1,231 名

施策目標２－４「図書館の機能を充実します」

幼児から高齢者、障害を持つ方にも対応した利用しやすい身近な図書館を目指し、ニーズに対応した蔵書の充実をはじめ、市内外図書館とのネットワーク化、大学図書館などとの相互協力、ユニバーサルデザイン化を進めます。

図書館機能を最大限に活用するため、県内外の事例を参考にしながら、学校図書館への支援や親子で交流する場の創出、ホームページからの貸出予約など効率的な運営管理に取り組みます。

指標２－４Ａ：利用促進に向けた図書館の資料及び機能の充実

・ニーズに合わせた計画的な蔵書の確保
・貸出予約の利便化
・年代別図書コーナーの設置
・自主事業の充実
・図書ボランティアの育成

指標２－４Ｂ：子どもの強く生きぬく力を育むための読書活動の推進

・第二次田村市子ども読書活動推進計画の実践
・子どもが利用しやすい館内環境の整備
・学習支援機能の充実
・子どもの読書活動にかかわる関係者の資質向上

指標２－４Ｃ：図書館事業の周知

・市民等への広報

【参考資料】

事　業　名	対　象	期　日	場　所	備　考 H29年１月末現在
学校支援ｾｯﾄ貸出	市立小中学校	年間	全館	ﾃｰﾏ毎にｾｯﾄした資料の貸出 団体貸出5件 ｾｯﾄ貸出1件
おはなし会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの育成	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・市民	年間		おはなし会開催のための人材育成と確保 1月末時点： ・読み聞かせボランティア連絡会と合わせてわらべうた講習1回 ・読み聞かせボランティア連絡会と合わせてブックスタート研修1回
絵本はじめまして事業	市民	2ヶ月毎(7ヶ月育児相談日)年6回	船引保健ｾﾝﾀｰ	保健ｾﾝﾀｰと連携 乳幼児をもつ親への 読書啓蒙活動 1月末時点：5回156人
巡回おはなし会	幼稚園・保育所・小学校等	実施予定 年48回	幼3・小7・ その他2	おはなし会どんぐりによる読み聞かせ等 1月末時点：45回 対象者計744人
ブックトーク	船引地区小学校	年28回	小学校7校	小学4年生以上を対象に読書啓蒙活動 1月末時点：27回 対象者計487人
ひだまりおはなし会	0歳～2歳と保護者	毎月第2・第4水曜	本館	おはなし会どんぐりによる本の読み聞かせ，わらべうた，手遊び等 1月末時点：16回開催 65人参加
おはなしの広場 (特別おはなし会)	幼児・児童・一般	年3回 (夏・冬)	本館	工作等とﾀｲｱｯﾌﾟしたおはなし会 夏のおはなしの広場(7/23)：42人 夏の怖いおはなし会(8/20)：8人 冬のおはなしの広場(12/17)：51人
大人のためのおはなし会	学生・一般 (15名～20名)	6/19(日) 11/20(日) 3/12(日)	本館	絵本の読み聞かせ， 朗読，素語りなど 6/19:12人 11/20:12人
老人会出張おはなし会	一般(老人会)	依頼を受け調整	本館	昔話等の絵本の読み聞かせ，素語りなど 1月末時点：3回73人
めざせ!図書館員講座	市内小・中学生 (4名～10名以内)	7月～3月 (全10回) 1講座2時間	本館 常葉分館 ※第2講座のみ	図書館の仕事を通して学校図書館や地域で利用の推進者となる人材を育成する H28受講生：12名 1月末時点：8回
としょかん応援隊	18歳以上(高校生可)・一般(市内)	通年	本館	書架整理、館内環境整備、その他図書館業務等
おはなし会(滝根)	乳幼児・保護者 小学校低学年	年11回	滝根公民館	担当者及びﾎﾞﾗﾝﾃｨｱによる読み聞かせ 1月末時点：9回58人
出張おはなし会(滝根)	乳幼児・保護者 小学校低学年	年間	三世代交流館・保育所・幼稚園・小学校	担当者及びﾎﾞﾗﾝﾃｨｱによる読み聞かせ 1月末時点：1回62人
おはなし会(大越)	乳幼児・保護者 小学生低学年	年7回	大越公民館	担当者及びﾎﾞﾗﾝﾃｨｱによる読み聞かせ 1月末時点：5回156人
出張おはなし会(大越)	保育園児	年10回	大越こども園	担当者及びﾎﾞﾗﾝﾃｨｱによる読み聞かせ 1月末時点： 保育部　9回248人 教育部　8回258人
出張おはなし会(都路)	こども園(保育部)	年10回	都路こども園	担当者及びﾎﾞﾗﾝﾃｨｱによる読み聞かせ 1月末時点： 保育部9回86人 幼児教育部9回206人
	こども園 (幼児教育部)	年10回		
	こども園(児童館)	年10回		
	岩井沢児童館	年11回	岩井沢児童館	担当者及びﾎﾞﾗﾝﾃｨｱによる読み聞かせ 1月末時点：9回72人
特別おはなし会(都路)	幼児・児童・一般	年2回 (夏・冬)	都路公民館	工作等とﾀｲｱｯﾌﾟしたおはなし会を実施 (8/10)19人 (12/26)38人
おはなし会(常葉)	乳幼児・保護者	4月から毎月第3水曜	常葉公民館	担当者及びﾎﾞﾗﾝﾃｨｱによる読み聞かせ 1月末時点：10回46人
出張おはなし会(常葉)	保育所(2歳児・3歳児)	月2回	常葉保育所	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ(ゆめきりん)による読み聞かせ 1月末時点：11回392人

３　芸術文化活動の推進

施策目標３－１「芸術文化活動の推進を図ります。」

質の高い芸術文化や伝統文化に日ごろから親しむことで、心豊かな人間性を育みます。また、市民が地域の芸術文化の担い手となり、地域文化の創造を通じて地域を活性化する活動を支援します。

指標３－１Ａ：芸術文化活動への支援

・芸術文化団体への支援
・各地区文化祭・芸能祭への支援

指標３－１Ｂ：質の高い自主文化事業等の実施

・文化センター運営協議会の開催
・小中学校芸術鑑賞教室の開催
・市民による身近な芸術文化の提供
・市民等への広報

【参考資料】

小・中学生芸術鑑賞教室実績

事業名	実施月日	回数	対象学年	参加者数(引率者含む)
小学生芸術鑑賞教室 江戸落語家による「寄席鑑賞会」	6月2日	2	5・6年生	654人
中学生芸術鑑賞教室 演劇「夏の庭」	7月7日	1	2年生	338人

次代を担う子どもの文化芸術体験事業実施校

事業名	学校名	実施月日	公演・体験内容
巡回公演事業 (5校応募で3校採択)	美山小	7月4日	児童劇
	岩井沢小	7月5日	児童劇
	要田小	12月6日	演劇
派遣事業 (5校応募で5校採択)	滝根中	8月17日	合唱
	古道小	10月4日	和太鼓
	船引小	10月4日	ヒップホップダンス
	常葉小	10月5日	楽器演奏
	要田小	10月12日	人形劇

文化センター自主文化事業実績

事業名	実施月日	回数	入場者数
浦山純子ピアノリサイタル	9月11日	1	148人
桂文珍落語ジャパンツアー	11月5日	1	145人
宝くじまちの音楽会 「南こうせつwithウー・ファン」コンサート	1月21日	1	552人
山本譲二コンサート	3月5日	2	－

４　文化財の保護と継承

施策目標４－１「文化財の保護と継承を推進します。」

貴重な郷土の財産である文化財に対する市民の関心を高めながら、歴史資料の保存や発掘、無形民俗文化財を伝承する人材の育成などを推進します。

指標４－１Ａ：文化財の保存と継承

・文化財保護審議会の開催と県文化財保護指導者研修会への参加
・指定文化財の防災訓練と防火査察の実施
・指定文化財の周知
・民俗文化の保存と伝統芸能の継承
・田村市史シリーズの継続発行

指標４－１Ｂ：歴史民俗資料館の活用と文化財資料館の整備

・歴史民俗資料館の活用促進
・文化財資料館の整備検討

５　スポーツレクリエーション活動の推進

施策目標５－１「スポーツ振興の推進を図ります。」

市民の健康増進・体力向上のために、スポーツ活動の拠点となる運動公園内の施設を利用した室内外の競技スポーツ交流人口の拡大と「市民がスポーツをする」機会を増やし、スポーツの盛んな明るい地域社会づくりを図ります。

また、公式大会を誘致し、市民が身近で「スポーツを見る」楽しさに目覚め、「スポーツをする」契機に発展していけるように推進を図ります。

指標５－１Ａ：運動公園内の施設によるスポーツ交流人口の拡大

・県外からの高校、大学の合宿誘致
・県レベルの各種大会の誘致
・施設のＰＲ
・クロスカントリーコースの利活用

指標５－１Ｂ：田村富士ロードレース大会への参加者の拡大と推進

・学校・スポーツ少年団との連携による参加者の拡大

指標５－１Ｃ：ふくしま駅伝の参加並びに記録への挑戦

・質の高い練習、スタッフの確保
・田村市チーム運営の委託契約

指標５－１Ｄ：小中学生を対象としたスポーツ大会・講習会等の開催

・ソフトボール大会、駅伝大会等の開催
・スポーツ教室の開催

指標５－１Ｅ：指導者対象の研修会、講習会の開催

・スポーツ推進員研修会・講習会
・スポーツ講演会の開催

【参考資料】

運動公園　合宿利用実績(H28)

施設	団体
総合体育館	東京都　明治学院東村山高校バドミントン部（2回：8日）
	東京都　明治学院中学校バスケットボール部（1回：4日）
	東京都　かえつ有明中高校マーチングバンド部(1回:4日)

運動公園　県大会等利用実績(H28)

施設	大会名
総合体育館	福島県小学生バレーボール連盟審判講習会(1日)
	福島県総合体育大会バスケットボール競技スポーツ少年団体育大会(1日)
	JA福島県職員連盟バレーボール大会(1日)
	福島県スポーツ推進委員研究大会(1日)
	福島県中学生新人バレーボール大会(2日)
	大相撲田村場所(5日)
	福島県U-12エンデバー大会（バスケットボール）(3日)
	福島近県選抜中学生インドアソフトテニス大会　(2日)
	福島県ジュニアバスケットボール選手権大会　(1日)
	福島県ミニバスケットボール新人大会(2日)
陸上競技場	福島県中長距離記録会兼各種大会選手選考会(3日)
	県中支部ゲートボール大会(1日)
	福島県サッカーリーグU18(2日)
	福島県障がい者フライングディスク大会(1日)
	福島県サッカーリーグ(60歳代)(1日)
	福島県市町村ゲートボール大会(1日)
	福島県スポーツ推進委員研究大会(1日)
	福島県クラブユースU-15新人サッカー選手権大会(2日)
	JA福島県職員連盟サッカー大会(2日)

クロスカントリーコース利用実績(H28)

大会等	たむらクロスカントリー大会
	田村富士ロードレース大会ウォークの部
	田村市陸上教室(ふくしま駅伝強化練習)
	船引町ウォーキング大会
トレーニング	船引中、移中、三春中、ふくしま駅伝田村市チーム、 田村市陸協、田村高校、小野高、川内中、富田中、大越中、 岩江中、船引南中、都路中、常葉中、滝根中、葛尾中、 西田中、船引歩く友の会、帝京安積高、尚志高、 日大工学部、ひらた清風中、安積高、安積黎明高

Ⅳ　点数評価の結果

田村富士ロードレース大会申込者（地域別）

年度	市内	市外	県外	合計	完走者
H28	919	230	45	1,194	1,075
H27	966	287	49	1,302	1,144
H26	931	334	67	1,332	1,135
H25	1,012	337	105	1,454	1,273
H24	894	401	88	1,383	1,291

田村富士ロードレース大会申込者（部門別）

年度	小学生	中学生	高校	一般	親子	ウォーク
H28	254	308	48	241	268	75
H27	298	323	62	270	268	81
H26	257	359	70	299	252	95
H25	349	376	48	297	314	70
H24	311	434	72	271	300	57

市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会成績

年度	記録	市の部	総合の部
H28	5時11分48秒	5位	5位
H27	5時13分07秒	6位	6位
H26	5時11分38秒	5位	5位
H25	5時13分51秒	7位	7位
H23	5時20分23秒	6位	6位

青少年スポーツ大会実績(H28)

大会名	参加チーム数	参加者数
あぶくま洞大多鬼丸旗争奪児童ソフトボール大会	96	2,000名
都路町グリーンパーク杯争奪ソフトボール大会	24	900名
都路町グリーンパーク杯争奪バレーボール大会	24	650名
ビートル駅伝大会	53	536名

講習会等実績（H28）

講習会等名	会場	参加者数
震災復興支援市民ふれあい卓球教室	大越体育館	150名
シチズングループ卓球交流会	田村市総合体育館	150名
体育協会「スポーツ講演会」 水谷隼トークショー＆卓球教室	田村市総合体育館	1,200名

田村市の将来像　「あぶくまの人・郷・夢を育むまち ～はつらつ高原都市 田村市～」
田村市教育委員会基本方針　「未来を担う人づくりのまち」

地域が育て 地域で育つ市民参加の教育

■は今年度重点施策

6 教育行政の円滑な推進と効率的運営

① 教育委員会の活性化を図ります。

(1) 開かれた教育委員会

□教育委員会の透明性を高める取組
- ○所管事務の調査、施設等の視察
- ○意見交換会の開催
- ○会議運営の工夫、内容の公表

(2)教育委員会施策の重点化

□教育推進プログラムの重点化と自己評価
- ○ダイジェスト版の策定
- ○施策の自己評価

(3)外部評価と公表

□外部評価委員による評価及び公表
- ○外部評価委員会の定期開催
- ○評価結果の議会報告とホームページ掲載

② 教育環境の整備・充実を進めます。

(1)田村市長期総合計画に基づく校舎及び園舎等の整備

□教育活動の場にふさわしい環境の整備
- ○要望や状況をふまえた計画的な修繕

□施設の耐震化の推進
- ○校舎及び体育館の計画的な耐震化工事

(2)学校の安全管理と事故防止

□児童生徒の安全な学校生活のための環境整備
- ○安全点検後の迅速な修繕
- ○防火管理体制の評価
- ○通学路の点検及び危険箇所への対応



(3)児童生徒の通学支援

□児童生徒の通学支援
- ○遠距離通学児童生徒への通学支援
- ○自転車通学への通学支援

③ 教育予算を効果的・効率的に執行します。

(1)教育予算の効果的運用

□田村市財政計画をふまえた効率的な予算執行
- ○教育大綱に基づく重点事業の設定
- ○予算編成ヒアリングの実施



④ 人材育成を推進します。

(1)高校生・大学生の就学支援

□奨学制度の効果的な運営
- ○奨学制度の周知

(2)高校生の海外留学支援

□海外留学支援制度の周知
- ○海外留学支援制度の周知

⑤ 教育効果を高めるための学校規模の適正化を進めます。

(1)少子化に伴う複式学級解消に向けた学校規模の適正化推進

■学校規模の適正化推進
- ○各地域の現状把握

(2)統合小学校開校準備の円滑な推進

■統合小学校開校に向けた事務の推進
- ○都路地区小学校２校の閉校準備
- ○都路地区統合小学校の開校準備

［田村市の教育10のキーワード］

①安全・安心（危機管理）
②共生と連携と評価の時代（教育の道しるべ）
③実践と点検・検証（教育活動の原理原則）
④真実は相手が理解してはじめて真実になる（説明責任・結果責任）
⑤心身を養えば学力は伸びる（知・徳・体のとらえ）
⑥基礎・基本（学力向上の基盤）
⑦当たり前のことを当たり前に思って当たり前に行動する（行動基準）
⑧感動と共感と感化（情操の育成）
⑨愛郷心（語り継ぐ田村の教えと郷土への誇り）
⑩市民参加の教育づくり（地域連携の強化と地域教育力の向上）

３　教育振興推進プログラムダイジェストⅢ（教育総務課所管事業）

６　教育行政の円滑な推進と効率的運営

施策目標６－１：「教育委員会の活性化を図ります。」

指標６－１A：教育委員会の透明性を高める取組

○ 所管事務調査、施設等の視察の実施、６月末完成した滝根小学校、大越小学校の視察、市道北ノ作線改良工事関連北ノ作遺跡発掘調査事業（埋蔵文化財）の現地視察、コミュタン福島の視察などを実施

○ 意見交換会の開催計画
会議資料の事前配布や会議における説明の効率化。会議内容をホームページで公表

・ 教育委員会開催は、定例会１２回、臨時会１回、施設訪問３回実施。

・ 委員会討議・課題テーマ一覧

① 教育委員会の事務に関する点検評価のあり方
② 都路地区小学校の統合準備
③ 滝根地区統合小学校建設事業及び大越小学校改築事業の進捗状況
④ 要保護及び準要保護児童生徒の認定
⑤ 各地区で開催している小学校水泳大会の記録や順位
⑥ 田村市生涯学習等複合施設整備基本構想策定の状況
⑦ 学校給食センターの運営方針と食育計画
⑧ 全国学力・学習状況調査結果の公表
⑨ 給食費及び奨学資金の未納者に対する対応
⑩ めだかの学校の運営方法等
⑪ 学校支援地域本部、各地域教育協議会の状況
⑫ 今後の児童・生徒数の推計
⑬ 田村市中学校海外派遣研修事業
⑭ 田村市フッ素洗口事業

教育委員会の所管事務の調査、施設や教育活動等の視察状況

月　日	事　業　名	場　　所
４月　６日	開校式	滝根小学校
４月　６日	市立小・中学校入学式、始業式	各小・中学校
４月１１日	市立幼稚園・こども園入園式	各幼稚園・こども園
４月１２日	第１回田村市総合教育会議	田村市役所
５月１２日	中体連田村支部陸上競技大会	市陸上競技場
６月　１日	中体連田村支部大会（～２日）	市総合体育館ほか
７月　５日	県市町村教育委員会連絡協議会県中ブロック研修会	郡山市立湖南小・中学校
７月１３日	市町村教育委員会連絡協議会田村支会研修会	三春交流館「まほら」
７月２２日	第１１回田村市小学校水泳大会	大越つつじヶ丘プール 船引小学校プール
7月28日~29日	田村市小学生サマースクール「先輩と学ぼう」	各中学校区内の小学校
８月　６日	田村市少年の主張大会	市文化センター
８月２２日	県市町村教育委員会連絡協議会教育委員研修会	福島テルサ
９月　８日	中体連田村支部駅伝競走大会	市陸上競技場
９月１４日	田村市小学校陸上競技大会	市陸上競技場
９月２１日	第１回教育委員会所管施設訪問	滝根小学校 大越小学校
９月２８日	中体連支部新人大会（～２９日）	市総合体育館 ほか
１０月１６日	第３４回田村富士ロードレース大会	市陸上競技場
１０月２５日	第２回教育委員会所管施設訪問	市道北ノ作線改良工事関連北ノ作遺跡発掘調査事業
１１月　９日	第７回田村地方交通安全大会	市文化センター
１１月１７日	田村市小学校童謡・唱歌音楽祭	市文化センター
１１月２０日	第２８回福島県縦断駅伝競走大会	白河～福島
１月　８日	平成２９年田村市成人式	市文化センター
１月１２日	平成２９年田村市立志式	市文化センター
１月２６日	第３回教育委員会所管施設訪問	コミュタン福島
２月１６日	平成２８年度田村市教育実践報告会	市文化センター
３月１３日	田村市立中学校卒業式	各中学校
３月１３日	第２回田村市総合教育会議	田村市役所
３月１７日	田村市立幼稚園・こども園卒園式	各幼稚園・こども園

３月１９日	第２回たむらクロスカントリー大会	田村市クロスカントリーコース
３月２３日	田村市立小学校卒業式	各小学校
３月２３日	田村市立都路地区２小学校閉校	古道小学校ほか
３月３０日	田村市教育委員会表彰式	田村市役所

指標６－１B：教育推進プログラムの重点化と自己評価

○ 教育大綱ダイジェスト版の策定
○ 課内での施策に対する自己評価の実施

指標６－１C：外部評価委員による評価及び公表

○ 外部評価委員会の前期・後期開催、臨時打合会の開催
○ 外部評価委員会委員の評価、評価結果の議会報告、ホームページ掲載

施策目標６－２：「教育環境の整備・充実を進めます。」

指標６－２A：教育活動の場にふさわしい環境の整備

○ 要望や現状を踏まえ計画的修繕の実施
　滝根小学校及び大越小学校の校舎・屋内運動場・プールが完成、（７月に落成式開催）、大越小学校旧校舎等解体完了、引き続き大越小学校敷地造成工事を実施中、船引小学校便所の和式４基を洋式化、船引中学校格技場の照明器具の取替、西向小学校屋外放送設備を更新、滝根中学校給食用配膳棚ステンレスに取替

指標６－２B：施設の耐震化の推進

○ 施設の耐震化については、学校及び幼稚園のあるべき姿を見据えた計画の立案に基づき、耐震診断結果の優先順により、滝根中学校耐震補強事業実施設計委託を実施、平成２９年度予算要求には、滝根中学校耐震補強事業、船引南小学校屋内運動場耐震補強事業実施設計、滝根幼稚園改築事業実施設計等を計上

指標６－２C：児童生徒の安全な学校生活のための環境整備

○ 通学路の点検及び危険個所への対応については、交通事故防止並びに安全対策のため、通学路安全推進会議設置要綱に基づき、通学路危険個所の把握、関係機関との合同現地調査、通学路安全推進会議の開催による関係機関との協議

指標６－２D：児童生徒の通学支援

○ 遠距離通学児童生徒への通学支援として、補助金交付の継続
○ 自転車通学への通学支援として、ヘルメット購入補助の継続

施策目標６－３：「教育予算を効果的・効率的に執行します。」

指標６－３A：田村市財政計画をふまえた効率的な予算執行

○ 教育予算の効果的運用のため、時期を失することなく早期に執行
○ 予算編成ヒアリングの実施や教育大綱に基づく重点事業の設定を行い、次年度に向けた効果的な教育予算を要求

施策目標６－４：「人材育成を推進します。」

指標６－４A：奨学制度の効果的な運営

○ 奨学制度の周知は、田村市内中学校や田村市の高校生が在籍する高校への制度案内依頼
○ 広報紙、ホームページ掲載
本年度貸付者は、１９名（うち本年度新規貸付者２名）
（高校２名、短大１名、大学１０名、専門学校５名、高等専門学校１名）
本年度貸与年額は８４０万円

指標６－４B：海外留学支援制度の周知

○ 海外留学支援制度は、猪狩俊郎人材育成基金による高校生の海外留学支援で、１年間のアメリカ留学に対する渡航費、学費、滞在費への助成であり、現在まで２名の実績はあるものの、最近２年は応募者がないため、今年度は、この海外留学派遣制度を経験した２名の方にアンケート調査を実施し、募集の参考とした。

○ 田村市の高校生が在籍する高校への周知依頼

○ 中学生海外派遣研修参加者へのチラシ配布による周知

○ 広報紙、ホームページへの掲載

施策目標６－５：「教育効果を高めるための学校規模の適正化を進めます。」

指標６－５A：学校規模の適正化推進

○ 各地域の今後の児童生徒数の推計

児童数推計

区　分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
滝根小	215	196	180	164	159	152	143
大越小	188	195	182	184	183	176	169
古道小	48	44	48	48	52	58	57
岩井沢小	19	18	18	14	15	15	16
関本小	61	53	54	44	48	41	36
常葉小	128	132	131	133	127	129	125
西向小	57	56	57	54	56	51	55
芦沢小	48	53	50	45	39	43	43
船引南	102	100	102	101	103	96	93
船引小	701	694	673	670	638	640	606
美山小	62	59	57	55	58	54	55
緑　小	45	45	49	48	49	53	62
瀬川小	32	32	31	38	36	38	39
要田小	47	50	52	58	54	59	51
計	1,753	1,727	1,684	1,656	1,617	1,605	1,550

生徒数推計

区　　分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
滝根中	119	130	126	121	100	102	94
大越中	120	107	103	100	101	97	88
都路中	63	57	51	43	31	26	24
常葉中	147	144	138	129	122	127	117
船引南中	98	79	72	72	74	78	78
船引中	468	444	432	407	396	390	421
移　　中	31	27	26	28	24	24	17
計	1,046	988	948	900	848	844	839

指標６－５Ｂ：統合小学校開校に向けた事務の推進

○ 閉校式開催及び準備

○ 都路地区２小学校閉校準備会議開催状況

月　日	会議名	場　所
平成28年6月28日(火)	都路地区小学校統合準備委員会 (第4回　校歌・校章小委員会)	都路行政局 大研修室(2階)
平成28年8月1日(月)	都路地区小学校統合準備委員会 (第5回　校歌・校章小委員会)	都路行政局 大研修室(2階)
平成28年12月21日(水)	都路地区小学校統合準備委員会 (第6回　校歌・校章小委員会(まとめ)	都路行政局 大研修室(2階)
平成29年3月2日(木)	都路地区小学校統合準備委員会 (まとめ)	都路行政局 大研修室(2階)

○都路地区統合小学校の開校準備

校歌・校章・校名碑の作成

岩井沢小学校から古道小学校への引っ越し

開校式開催準備

～　Ⅳ　点検評価の結果　～

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた　S:目標を上回る成果をあげた　A:おおむね目標を達成した　B:業務に支障はないが、目標は下回った　C:目標を大幅に下回った

	施策	内部評価		外部評価	
学校教育の充実	**知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲等の「確かな学力」を確立します。** (1) 学力向上の支援 ■活用力を育成する授業の充実 ○言語活動を充実する学習過程の工夫 ○授業改善チェックシートの計画的活用 ○定着確認シートの活用 □学習規律、学習習慣の確立 ○授業での学習規律の定着と学び方指導 ○保護者シラバス・プログレスの推進 ○家庭学習の点検と定着 ■幼・小・中・高連携による取組 ○連携推進会議 ○小・中連携(中学校区)　○中・高連携 ○小・中9年間をつなぐｶﾘｷｭﾗﾑ ○幼小中連携推進ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ支援事業 ○小学生ｻﾏｰｽｸｰﾙ「先輩と学ぼう」 □学力実態調査の結果分析と活用 ○田村市学力調査(NRT、中学生新入生) ○全国調査、福島県調査	○学力向上推進会議の活性化を図るため、全国学力調査結果から得られた指導改善のポイントを各校担当者に伝えて共有化を図った。(指標1－1A～E) ●学力調査の結果、算数数学への取組に課題が残った。読解力をつけるとともに数学的な考え方が身につく指導法について研修をさらに深める必要がある。(指標1－1A～E) ○授業研究会については各学校及び各中学校区単位の創意・工夫ある取り組みを重視して、積極的に実施する環境整備に努めた。また、市教委の推奨する授業模範として、活用力育成のための授業研究会を外部講師を招いて実施した。(福島大附属小教諭、算数・数学コアティーチャー高校教諭)(指標1－1A～E) ○小学生サマースクールでは、講師の採用枠を広げるとともに、習熟度別指導を取り入れ、個に応じた指導を実施することで、夏季休業中の家庭学習への意欲付けを図った。	A	○学力向上推進委員会を中心に各担当が努力していることが窺がえる。 ○学力調査を個の成長に生かす活用を期待したい。 ○何といっても教師の情熱、子どもへの意欲を高める工夫を今後も大切にしてほしい。 ・わかる、できる授業の成立 ・動機づけの工夫 ○地域内小・中学校の研究授業を参観、各学校の特色ある取組や個に応じた授業等の工夫が見られた。 ○人権教育、クラブ活動、教科指導等、教員による個別研究及び研修体制が充実していた。 ○教育実践報告会に参加、各教育実践が普段の教育実践と結び付いていると感じた。得られた実践成果については、今後の継続性が必要と感じた。 ○学力調査から弱点を洗い出し、強化するように共有化を図ったことが分かった。学力向上の効果としては、中学2年生の経年変化ではなく(報告書P9(1))中学1年→中学2年→中学3年と、その学年の生徒について経年変化を追うことに意味があるのではないかと思う。 　各学年により学力の差はあると思う。また、1年で効果を上げるのは難しいと思う。 　ただ、全国平均と比べるのではなく、前年と比べ、どのくらい伸びたのか、という方が分かりやすい。	A
	(2) 英語が使える人材育成 □国際社会に対応した教育の体系的な実践 ○小学生英語活動集中プログラム ○小学校英語活動充実のためのALT派遣 ○中学生夏季英語研修 ○中学生海外派遣研修事業 ○各中学校専任のＡＬＴ派遣	○小6の英語活動集中プログラム、中学生を対象とした夏季語学研修や海外派遣研修などとの系統性をより強く意識させて実施した。また、全校にALTを派遣して英語に親しむ環境作りに努めた。英語への興味関心を高めるとともに、学習意欲を醸成することができた。(指標1－1E)	A	○田村いや県内外にも誇る取り組みである。体験させる英語学習は、これからも継続、拡大して取り組ませたい。 ○ALT活用等、英語への興味関心向上を目指した取組が見られた。児童生徒の実態に応じた教育の推進、一人一人を大切にした指導の更なる充実を願いたい。 ○中学生の海外派遣研修は、とても人気のあるプログラムである。 　英語に興味のある子が集まるので、希望者には、抽選にもれた子も派遣前の講習会に参加できたら良いのではないか。	A

	施　策	内部評価		外部評価	
学校教育の充実	**規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します。** (1) 道徳教育の充実 □「田村っ子のルール10」の実践 □道徳教育推進教師中心の指導体制の充実 ■道徳の時間の充実 ○「心の教育」資料集の活用 ○地域人材の積極的活用 ○国県資料の活用 □道徳的実践力の育成	○道徳教育推進委員を中心として、各学校における道徳の授業をはじめとする道徳教育がより一層推進されるように定期的に委員会を開催した。道徳の授業研究会を実施し、心に響く道徳の授業について、意見交換を行うことにより、道徳の実践意欲が高まった。(指標1－2①A～B)	A	○「田村っ子のルール10」を定着させ、実践化に取り組んでいることがすばらしい。 ○「田村っ子のルール10」の実践については、各学校の教育活動に浸透していると感じた。 ○道徳教育の重要性を意識した学校運営がなされている。 ○立志式の中で下重庄三さんの講演があり、その中で「田村っ子ルール10」について大切であると子ども達に語りかけていた。学校の先生でない大人からの言葉に心に響いた子ども達も多かったのではないかと思う。また、保護者への理解を得るための授業参観は、とても有効であると思う。	A
	(2) 体格・体力の向上の支援 ■体育の授業と体育的行事の充実 ○「運動身体づくりプログラム」の実践 ○業間等を利用した運動の推進 ○体力・運動能力等調査の結果分析と活用 □小学校水泳・陸上大会の実施	○体格は全国平均を上回っている。肥満傾向出現率が全国を上回っており、生活習慣を含め、効果的な改善策が求められている。一方、体力は各学年とも全国平均よりも下回る種目が多く、体力向上への取り組みを強化する必要がある。体育の授業では、体力向上推進計画に沿って日常的な運動量を増やすことに努めている。(指標1－2②A～C)	B	○震災・原発のハンディを乗り越えて、各校努力されていることに感謝。「肥満」と「う歯」の改善にひと工夫ほしい。 ○安全教育学習の効率を上げる集団行動の取り組みをさせたい。 ○田村市体育大会、各競技大会等、適切な運営がなされ、子供たちの体力および運動能力向上に寄与している。 ○体力については、個人差、向き、不向きにより差が大きいと思うが、小さい頃からの働きかけで違ってくるので是非、外の遊び場を確保して子ども達を遊ばせたい。 学校が統合し、通学で歩かなくなり、体力がつかないのではないか。中学生も車で送ってもらう子が多く気になっている。	A
	(3) 健康教育の推進 □食育に関する研修や授業の充実 ■健康教育に関する指導の充実 ○薬物乱用防止教室等の開催 ○歯科保健教室、思春期保健教室の開催 □放射線教育の推進	○う歯の保有率や処置率の改善のため、フッ化物洗口事業を小学校・幼稚園・保育所で実施することとした。保護者会を開催して丁寧に説明し、すべての学校・幼稚園で取組を始めた。	A	○健康教育の重要性を意識した教育活動が行われている。体力向上、運動能力向上等との関連づけがなされ、児童生徒の意欲向上につながっている。	A
	(4) キャリア教育の推進 □9年間を見通したキャリア教育の充実 ○勤労・職業体験活動の充実 (5)特色ある教育活動の推進 □伝統や文化に関する教育の充実 ○伝統文化学習担当者会 ○童謡・唱歌音楽祭　○立志式 □読書活動推進計画の作成と実践 ○読書習慣づくり○学校図書の整備充実 ○市図書館データベースの活用 □防災教育の推進 □環境教育と学校緑化の推進 □人権教育の充実とJRC活動の推進	○望ましい職業観や勤労観を育てるため、小・中学校の教育課程に福祉施設等の訪問学習や職業体験学習を位置づけ、系統的・計画的にキャリア教育を実施した。 体験を通して、さらに将来の生き方についての考えが深まるような取り組みについて、はたらきかけていきたい。	B	○船引高「デュアル実習」の報告を参考にして、9年間を見通したキャリア教育を考えて行きたい。 ○勤労、職業体験活動の更なる推進、充実を望みます。 ○中学2年生の職場体験として我が家も農業体験を受け入れました。1日張り切って作業をしてくれて、受け入れ側が元気をもらい良い刺激を受けました。子ども達が、地域の人達と触れ合う事で、地域の子ども達への見守る目ができると思う。	A

	施　策	内部評価		外部評価	
学校教育の充実	(5)特色ある教育活動の推進 □伝統や文化に関する教育の充実 ○伝統文化学習担当者会 ○童謡・唱歌音楽祭　○立志式 □読書活動推進計画の作成と実践 ○読書習慣づくり○学校図書の整備充実 ○市図書館データベースの活用 □防災教育の推進 □環境教育と学校緑化の推進 □人権教育の充実とJRC活動の推進	○童謡・唱歌音楽祭では、小学校4年生を中心に童謡や唱歌を発表し、保護者や地域の方々に聞いていただいた。今年度は、地域住民による民話の語り部にも協力いただき、充実した音楽祭となった。(指標1－2①C) ○立志式においては、市内中学2年生320名に立志証書を授与した。また、前国士舘大学駅伝部監督下重庄三氏による記念講演を実施し、今後の進路決定や目標実現に向けた啓発の機会とすることができた。 ○人権教育においては、常葉中学校区が福島県教育委員会から人権教育開発事業の委託を受け、授業研究や学校の特色を生かした取り組みを展開し、人権を尊重する態度の育成を図ることができた。	A	○毎年「立志式」「童謡音楽祭」には感動いたします。 いじめなど、現状において人権教育の必要性は大でありますが、もっと身近なことばを使用し(田村っ子ルールなどの中から)工夫して全学校で考えさせたい。 また、赤十字(人道)教育とからめて、日常化させてみてはどうか。 ○立志式を、大切な節目として全員が参加し、生徒一人一人が自分の志を再確認したり、強くしたりするよい機会となっている。 ○人権教育については、研究校の継続性の確保や他の小・中学校への拡大を図って欲しい。全国で人権、人格軽視のいじめ等が問題となっている中、田村市の今後の取組にも期待したい。	S
	教職員の資質の向上を図ります。 (1) 教職員の指導力の向上 ■学力向上推進会議の充実 ○学力向上推進会議 ○学力向上推進委員・学校教育指導委員の研修 ○市全体及び中学校区単位の授業研究会 ○授業改善のための定着確認シート活用の研究 □各種研修会の充実 ○転入教職員研修会　○講師研修 ○小学校英語担当者B・H研修 ○小・中英語担当者とALTの合同研修 ○いじめ・不登校対策研修会 ○食育推進ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ・学校栄養職員研修 ○養護教諭研修会○幼稚園教諭等研修会 ○コンピュータ等教育推進研修会 ○中学校武道充実のための講師派遣 ■計画訪問等による授業力向上の支援 ○指導訪問・要請訪問 ○校内研修等への支援 □日常的な授業改善への支援 ○授業改善チェックシートの計画的活用（再） ○学力向上だより・指導資料の配付 □教育の情報化対応の充実 ○ICT機器の有効活用に関する研修 ○情報ﾓﾗﾙ教育の充実と保護者への啓発 (2) 服務・倫理の確立 ■教職員の不祥事根絶と勤務の適性化 ○校内相談体制の構築 ○体罰絶無のための研修 ○教職員の勤務実態の適正化と健康増進	○各種研修会では、県義務教育課指導主事、県中教育事務所指導主事のみならず、県内外から専門的知見をもつ講師を招聘し、研修会の充実を図った。 ○指導訪問・要請訪問については、可能な限り複数の指導主事を派遣し、教職員の指導力の向上に向けた指導助言にあたった。特に、要請訪問では研究授業当日だけでなく、できるだけ事前研究会等にも参加するように努め、指導助言に当たった。(指標1－3A) ○不祥事防止・根絶に向け、市服務倫理対策委員会を開催した。　また、各校から行動計画を提出させ、田村市からは不祥事を出さない意識を高めるようにした。さらに教職員一人一人に当事者意識を高める工夫が必要がある。(指標1－3B) 交通事故防止 不適切な言動	A B	○授業が勝負。そのためにも通常の生活の中で信頼をもたせ胸襟を開いた授業ができるようにしたい。 ○教職員の資質向上には、教職員一人一人の意識改革が必要であり、教員研修の推進が大切である。各種研修会が企画されているが更なる研修体制の拡充が必要である。 ○情報モラル教育は、家庭との協力が欠かせない。引き続き、生徒だけでなく保護者への啓発をしてほしい。 ○個々の先生の指導力向上に向けて指導主事(県も含め)学校長と力を合わせ、できるだけ授業を見て話し合いができる時間を持ちたい。 ○教師集団でのコミュニケーションを大切にし、明るい雰囲気、何でも話せる職場づくりに向けてできるだけ時間にゆとりを持つことができるよう工夫したい。 ○不祥事等の根絶については、常に新しい課題が発生している。交通違反等、身近なところから規範意識の向上を願いたい。○児童・生徒にとって先生は、影響力のある大人であるので、徹底して取り組んでいただきたい。	A B

	施　策	内部評価		外部評価	
学校教育の充実	**施策の点検・検証を行うとともに、学校の運営体制を支援します。** (1) 施策・事業等の評価 ■教育振興推進ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの着実な実践と評価 □教育実践成果の積極的な公表 ○教育実践報告会の開催 ○教育委員会ホームページ等による広報活動の充実	○内部評価及び外部からの評価を受け止めて学校経営の改善に生かす姿勢が見られる。今後も、地域の教育力を生かして、学校の活性化を図る取組を進められるよう、教育委員会として支援していく。 ○教育実践報告会においては、市内中学校区の小中連携の取組のほか、学校教育指導委員の優れた実践の発表やパネルディスカッションを取り入れるなど、工夫して開催したことが好評であった。	A	○教育実践報告会での各校の取り組みが、全市内学校に共有化される場があることは評価される。 これからは、この成果が各個人にどう生かされるかである。 ○教育実践報告会については、教職員の実践を発表できる場の確保、他校への教育実践成果の拡大、教職員一人一人のスキルアップ等、多くの成果が期待できる事業である。	S
	(2) 開かれた学校づくり □教育活動の積極的な公開 ○学校だよりの発行 ○ホームページ活用等による情報発信 ○学校へ行こう週間の実施 □学校評価による学校運営の充実 ○学校評議員の委嘱と学校運営への参加 ○学校評価の公表と学校関係者評価の充実	○どの学校も教育活動の様子を毎日更新する等、積極的に情報発信に努めた。	A	○各校ホームページに工夫がみられる。楽しく拝見できる。 ○学校評議員の意見や地域の声を学校教育に反映させる取組が行われている。	A
	(3)地域教育力の活性化 ■地域ボランティアの積極的活用 ○学校支援地域本部事業との連携 ○小学生サマースクール(再) □田村市の教育10のキーワード	○学校行事や授業等への地域の方々や保護者が積極的に参加、協力する場面が増えてきている。地域の産業等の見学学習なども積極的に行われ、学校支援地域本部事業と関連した取組が充実してきた。	A	○だんだん地域の教育力が学校へ向けられるようになってきているが、伸び悩みもみられるので、ボランティア養成などの工夫がほしい。 地域ぐるみ＝「あぶくまの人・郷・夢をはぐむまち」づくり 地域団体への呼びかけ ・赤十字 ・体育協会 ・スポ少 ・老人会 ・婦人会 ・青年団 ・退職公務員，校長会 ○人材発掘育成活用について ・学校応援団の「学校支援地域本部事業」でのボランティア養成。 ○各学校で地域に積極的に出かける教育がなされ、地域と一体となった活動が推進されている。今後も児童生徒に住んでいる地域を大切にするという意識付けと地域を活用した教育の推進を期待したい。 ○小学校の学校だよりが回覧板の中に入ってきて、小学校のいない家庭でも見ることができてよいと思う。 中学校のHPでは、各部活動の大会結果をUPしてあり良かった。	A
	幼児期における教育を推進します。 (1) 保・幼・小の連携強化 ■保幼小連携による幼児教育の推進 ○「田村市公立幼稚園共通カリキュラム」 ○「たむらっ子はぐくみステップ」の実践 ○保・幼一元化に基づく教育の充実 ○小学校入門期指導の充実	○「小学校入門期指導の手引き」の活用を図るとともに、推進委員会を3回開催した。2回目は、福島大学教授を招聘した合同研修会を開催することで、就学前の子ども達が小学校入学後の生活にスムーズに適応できるようにした。(指標1－5A)	A	○公立幼稚園と私立幼稚園の指導者や園児の交流を、小学校入学前に工夫したい。 幼児教育の重要性をもっと保護者に理解させたい。 ⇩ ○施設間連携、職員間連携を強化して欲しい。それぞれの施設が持つ情報を次の施設に受け継がれる連携を期待したい。 ○幼稚園・こども園・保育所と、保護者との良好な協力体制が大切で良い信頼関係が築けていると思う。	A
	(2) 幼児教育の保護者負担の軽減 □市立幼稚園の保護者負担金の無料化	○幼児教育の保護者負担軽減は引き続き実施していく。	A	○更なる充実をお願いしたい。	A

	施　策	内部評価		外部評価	
学校教育の充実	**一人ひとりのニーズに対応した教育を推進します。** (1) 特別支援教育の充実 □特別支援教育支援員の配置と研修 □特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ研修の充実 □通級指導教室の開設と充実 □「すくすく教室」と連携した就学相談の充実 ■関係機関との連携による「サポネット田村」運営の充実 ○サポネットファイルの活用 ○研修・啓発セミナー等の実施	○特別支援教育支援員21名を幼稚園、小・中学校に配置し、適切な支援に関する研修を実施することで児童生徒のニーズに応じた支援がきめ細かにできるようにした。 ○市保健課「すくすく教室」に指導主事が出席し、保護者からの相談を受けたり就学に関する情報提供を行ったりした。	A	○障害児の多様化、複雑化が進み、指導できない子も出てくる現状なので、支援に関する研修の場を広げたい。 「すくすく教室」など保健課、生涯学習課など、関係機関と積極的な取り組みをし、幼児教育（相談）を拡大していきたい。 ○「サポネット田村」による取組等、田村地区特別支援教育の推進と各関係機関との連携がなされているが他地区との連携も必要である。今後は、田村支援学校を十分に活用した連携を期待したい。 ○「サポネット田村」について、もう少し情報発信してほしい。 「すくすく教室」は保護者・子どもにとって、助けになるので続けていってもらいたい。	A
	(2) 個や学校のニーズに対応した教育の推進 □学習機会の提供 ○小学生サマースクール(再) ○長期休業中等による自主学習指導支援 ○復興支援 「田村っ子の元気を支援する事業」	○小学生サマースクールでは、小学校5年生を対象に算数科の習熟度別指導を取り入れ、個に応じた指導を実施することで、夏季休業中の家庭学習への意欲付けを図った。（再掲）	A	○「小学生のサマースクール」。この時にゆっくりマイペースで力をつけさせてあげたい・・・。これからの学習の成果に自信を持たせる機会にしたい。 ○個を大切にし、個の特性に応じた指導を意識した教育をお願いしたい。	A
	(3) 学校への適応指導の充実（いじめ・不登校防止等への対策） □適応指導の充実 ○学級生活満足度調査（Q-U調査）の実施と活用（小3～中3） ○小小連携、小中連携による交流事業 ○導入期（異校種の接続）指導の充実	○生徒指導担当教員へ向けて「いじめ・不登校対策研修会」を2回実施した。2回目は、県生徒指導アドバイザーによる具体的事例の対応策についての講演を実施し、実践力の向上を図ることができた。	A	○不登校児童・生徒の数が減少してきたことは、評価したい。これからゼロに近づける努力をしていただきたい。	A
	■いじめ、不登校への迅速で適切な対応 ○市いじめ防止基本方針に基づく体制の整備（いじめ問題対策委員会等） ○心の教室相談員の中学校配置と小学校派遣 ○SC,SSW派遣事業の活用 ○「ほっとスペース」（ボランティアによるフリースクール）との連携	○田村市いじめ防止等に関する条例・関連規則を制定し、市全体でいじめ防止に組織的に取り組む体制を整備した。また、田村市いじめ防止基本方針を条例との整合性を図り改訂した。 ○教育相談において心の教室指導員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの積極的活用を推進し、昨年度より不登校児童生徒数が減少した。（指標1－6B）	A	○いじめ、不登校等、根絶が難しい課題であり、教職員間連携と学校全体の取り組みが必要である。子供の小さな変化を見過ごさない、見逃さないというきめ細かな指導をお願いしたい。	A
	(4) 学校の危機管理体制の充実 □アレルギー、感染症への対応 ○学校給食食物ｱﾚﾙｷﾞｰ対応体制の確立 ○感染症への対応体制の確立 □非常時情報伝達体制整備 ○緊急時メールシステム ○災害時対応マニュアルの整備と周知	○食物アレルギーへの対応体制については、市教委・学校がマニュアルに添って的確に対応することができた。 ○緊急時のﾒｰﾙｼｽﾃﾑが大いに活用されている。	A	○きめ細かい危機管理の取り組みに感謝いたします。 ○安全教育、危機管理教育については、管理職、教職員全体での取組を推進してほしい。 ○災害時対応マニュアルを家庭にも配ってほしい。	A

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた　S:目標を上回る成果をあげた　A:おおむね目標を達成した　B:業務に支障はないが、目標は下回った　C:目標を大幅に下回った

	施策	内部評価		外部評価	
2 生涯学習の充実	**1 公民館の活性化を図ります。** (1)学級講座の充実 ■市民のニーズを捉えた学級講座の企画 ○学級講座の評価と再検討 ○学習ニーズアンケート調査の実施と結果の共有 ○共同開催する学級講座の企画	■各公民館毎の事業内容や評価等の共有を行ったが、母体となる団体（老人会や婦人会）が組織されている地区については比較的活発に教室が開催されている。教室内容についても事前アンケートや運営委員会で検討を始めた公民館もあり参加者の要望を取り入れ実施されている。一方で一般市民への公募型の教室については参加者の確保について苦慮している。魅力的な教室開催の必要性もさることながら、公民館へ来るきっかけづくりを工夫する必要がある。 一般市民を対象とするニーズアンケート調査は実施できなかった。 共同開催したハイキング等の移動教室は、市有バスを活用したことで地区の隔たりを意識せずに参加でき好評であった。一般公募型の学級講座についても今後共同開催について検討をする。	B	○公民館としての柱となる「学級講座」の企画、運営に少ないスタッフで取り組まれておりますことに感謝いたしますが、市民にとって何が必要なのか(必要課題)、何が要求されているのか(要求課題)、を公民館運審で協議し、取り組まれますことを期待します。 ○各種講座の充実のため、地域人材(人材バンク等)の活用や地域の特色を考慮した講座等の工夫が必要である。 ○参加してみたい教室もあったが時間が合わず参加できなかった。 また、教室開催のお知らせがされていない(足りない)と思う。 Facebookなどを使って若い年代の市民にも働きかけをしたらどうか。	B
	(2) 公民館運営の活性化 □市民に愛される公民館づくり ○管理運営体制の検証 ○市民に愛される公民館の管理運営方法の検討	□公民館長会議や担当者アンケートを実施し運営体制や運営方法の検討を行ったが、有効な解決方法を見出すことはできなかった。継続して検討を重ねたい。	B	○機能的な(少人数で有効に働く)運営体制を作り上げ、5公民館同じ姿勢で進むよう望む。 ○それぞれの公民館で特色ある運営がなされているが地域差も感じられる。	B
	2 放課後子ども教室事業を推進します。 (1) 放課後子ども教室推進 □放課後子ども教室の円滑な運営 ○実施校の継続 ■コーディネーター及び指導員の育成と確保 ○コーディネーターの育成 ○指導員の育成 ○指導員の確保 □放課後子ども教室の周知及び広報 ○教室だより、めだかの学校通信の発行	□継続実施する9校で概ね円滑に運営できた。 ■県中地区研修会・県実践研修会・県社会教育研修会に積極的に参加できた。市が企画開催したコーディネーター・指導者研修会には35名が参加し、活発な意見交換が図られた。 随時指導員の募集を市のホームページや広報などで実施しているが申し込みはなく、口コミでの直接勧誘により今年度新たに3名の指導者が確保できた。 □めだかの学校通信は3月に発行予定。各放課後子ども教室だよりの発行は2校で実施。	A	○担当職員、コーディネーター、ボランティアと真剣に取り組まれ、成果をあげられておりますこと、すばらしい。 ○利用者のニーズに応じた運営を推進して欲しい。 ○指導員の募集は、めだかの学校を利用する家庭にすると子どもが利用している分、身近で理解もあり良いのではないか。めだかの学校通信の中に募集のお知らせをしたらどうだろうか。 指導員の育成として遊びの講習会や安全確保のための講習を企画してほしい。	A

	施　策	内部評価		外部評価	
2 生涯学習の充実	**3 学校支援地域本部事業の推進を図ります。** (1) 学校支援地域本部事業の円滑な実施 □学校支援地域本部事業の推進 ○学校支援地域本部会議及び地域教育協議会の開催 ○未実施地域での事業開始に向けた検討 ■地域の人材活用体制の整備 ○コーディネーターの育成 ○ボランティアの確保と有効活用、資質向上 □学校支援地域本部事業の周知及び広報 ○学校支援地域本部だよりの発行	□継続の6中学校区は予定通り実施できた。 未実施である都路中学校区の準備も順調に進んでおり29年4月には事業を開始できる予定。 ■情報交換会を定期的に実施。県実践研修会への積極的な参加ができた。 中学校区をまたいだボランティアの活用を進めているが、共有化には至っていないものの、コーディネーター間の情報交換により、広域的な活用は図られた。 本部だよりや市ホームページによりボランティアを募集し年度当初287名→328名と41名の新たな登録があった。 □昨年同様に学校支援地域本部だよりの発行ができた。	A	○ボランティアの活躍により、学校の応援団としての役割が果たせましたが、学校側の姿勢とボランティア側(需要と供給)とがピッタリいかない難点があります。 ○ボランティアの確保、活用推進も必要であるが組織全体で支援、連携する体制の充実も大切である。 ○社会教育の場での指導者・リーダー、ボランティア確保。	A
	4 図書館の機能を充実します。 (1) 図書館の機能充実 ■利用促進に向けた図書館資料及び機能の充実 ○ニーズに合わせた蔵書の確保 ○貸出予約の利便化 ○年代別コーナーの設置 ○自主事業の充実 ○図書ボランティアの育成 □子どもの強く生きぬく力を育むための読書活動の推進 ○第二次田村市子ども読書活動推進計画の実践 ○子どもが利用しやすい館内環境の整備 ○学習支援機能の充実 ○子どもの読書活動にかかわる関係者の資質向上 □図書館事業の周知 ○市民等への広報	■図書資料の購入は、子ども読書プラン（第二次）に掲げた施策や蔵書構成、リクエスト等に基づいて進めた。 貸出予約システムについては、大規模な図書システム改修・更新が必要となり実施できず、引き続き検討事項となっている。 年代別図書コーナーについては、特に乳幼児から中高生のコーナーを中心に、蔵書構成とも調整を図りながら整備している。 おはなし会は、読み聞かせボランティアと職員が協力して、年間およそ200回実施。ブックトークは例年通り船引地区の7小学校でそれぞれ実施した。次年度は市内全域の小学校を対象に実施する予定。 ボランティア連絡会を年2回実施して、手遊び・わらべ歌の研修とブックスタート研修を実施し、ボランティアのスキルアップとモチベーションを高めることができた。 □滞在型の利用に対応し、健康面への配慮もあることから飲食禁止を条件付きで見直した。 7か月育児相談では、おはなし会、絵本の紹介等を実施し、乳児への読み聞かせの大切さをお伝えした。 学校向けの学習支援セットについても調べ学習での利用状況を参考にセット内容見直しを随時行い、実態に合った整備を進めています。 □本年度からホームページやフェイスブックによる情報発信を行っている。担当職員が、研修を受けながら内容の充実・更新などに努めた。	A	○子どもの読書活動推進に力を入れられておりますことに感謝いたします。 ○図書資料の購入、計画的にニーズに応えて購入されておりすばらしいが、個人では高価で求められない専門書の購入も考えていただきたい。 ○これからの図書館つくりの方向として ・資料センター (視聴覚教材)(IT教材) ・学習室 等の機能を充実してほしい。 ○ホームページ等、インターネットを活用した図書館運営の拡充が必要である。 ○Facebookによる情報発信をしていることを知らなかった。市役所や田村市内の各団体などとシェアしあって上手に発信してほしいです。(特に、お勧めの本・ブックトーク、新着本など。)	A

施策		内部評価		外部評価	
3 芸術文化活動の推進	**1 芸術文化活動の推進を図ります。** (1)多様な芸術文化活動への支援 □芸術文化活動への支援 ○芸術文化団体への支援 ○各地区文化祭・芸能祭への支援	(1)文化協会の作品展示会と芸能発表会の開催を支援し、作品展示会は５００名の来場者、芸能発表会は５４団体で６５演目の発表があった。 各地区の文化祭・芸能祭実行委員会へ事業補助金を交付することによって、例年どおり開催された。	A	○全市の作品展示会ができるよう期待したい。 ○芸術文化、文化祭、芸能発表会等、固定化が進み、今後の運営には、工夫が必要と思われる。参加者の興味関心を活かした運営に期待したい。	A
	(2)文化センターを活用した芸術文化の提供 □質の高い自主文化事業等の実施 ○文化センター運営委員会の開催 ○小中学校芸術鑑賞教室の開催 ○市民による身近な芸術文化の提供 ○市民等への広報	(2)小学生芸術鑑賞教室は江戸落語家による「寄席鑑賞会」。中学生芸術鑑賞教室は、演劇「夏の庭」でそれぞれおおむね好評であった。小中学生が本物の芸術に触れる機会はそう多くないので、選定する内容に留意しながら継続していく。 自主文化事業では、テレビやラジオのCMにより広報を行い、コンビニでのチケット販売を行った。「浦山順子ピアノリサイタル」と「桂文珍落語ジャパンツアー」「山本譲二コンサート」は来場者が見込みより少なかったので、事業の企画にあたっては市民のニーズ等の把握や選定スケジュールの見直しも検討する必要がある。	B	○「芸術鑑賞教室」は生の演技が見れる数少ない場なので続けていただきたい。 ○自主文化事業、参観者を増やすこと、苦労されておりますが、運営委員会等でも協議、一人でも多くの方に利用される協議をしていただきたい。 ○小中学生が、本物の芸術に触れるのはとても良いことだと思う。 自主事業は、市民のニーズをつかみつつ、これからも続けていってほしい。	B
4 文化財の保護と継承	**1 文化財の保護と継承を推進します。** (1) 地域に残された文化財の保存と継承 ■文化財の保存と継承 ○文化財保護審議会の開催と県文化財保護指導者研修会への参加 ○指定文化財の防災訓練と防火査察の実施 ○指定文化財の周知 ○民俗文化の保存と伝統芸能の継承 ○田村市史シリーズの継続発行	■文化財保護審議会は3回の開催、県文化財保護指導者研修会（２日間）には文化財保護審議委員が参加した。 国指定の堂山王子神社での防災訓練と宇佐神社ほか１５カ所の指定建造物への防火査察を例年どおり実施した。 指定文化財標柱は「船引町荒和田字二ツ宮の三渡神社絵馬」ほか１カ所、説明板は「船引町文珠字南の萬福寺供養塔」ほか２カ所に設置した。 平成２４年度から年次計画に基づき進めている民俗芸能記録映像のデジタル化は「常葉町　山根の太々神楽」、「大越町　田子屋の三匹獅子舞」、「船引町　新舘の太々神楽」の３件について実施した。 次の市史９では田村市の遺跡をテーマに年度内発行を予定したが、夏以降規模の大きな発掘調査が続き編集行程に支障をきたしたため、平成２９年に改めて発行を目指す。	A	○何を保存、何を継承するかで指定された物は大事ですが、指定外の物にも目を向けていくことの必要性を感じます。 ・各家庭にある古文書（昭和～） ・旧町村役場の公文書 ・廃校の資料等 等々、保存と整理 ・古文書、公文書、図書、資料(視聴覚) ○保存継承、施設整備の更なる推進をお願いしたい。	A
	(2)地域の歴史を学び親しめる施設の整備 □歴史民俗資料館の活用と文化財資料館の整備 ○歴史民俗資料館の活用促進 ○文化財資料館の整備	□歴史民俗資料館の自主事業は片曽根山の山開きに合わせた「お茶会」、「正月飾りつくり・もちつき」、「団子さし」の３事業を継続したが、地域の昔ながら行事を掘り起こし、新たな事業とする試みも進める必要がある。 市当局の施設利用計画や空き校舎の有効活用も視野に既存施設を文化財資料館として利用する方向で検討を進めている。	A	是非「資料館」の早期実現を期待したい。 より詳しい資料の整備と展示場所を確立願う。 ↓ ・資料館がほしい ・人的な配置がほしい。 ・公文書、古文書の収集・整理の緊急性のあるもの。 ○市内施設の有効活用（公共施設等総合管理計画）	A

施策		内部評価		外部評価	
5スポーツレクリエーション活動の推進	**1 スポーツ振興の推進を図ります。** (1) 幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動の推進 ■運動公園内の施設によるスポーツ交流人口の拡大 ○県内外からの高校、大学の合宿誘致 ○県レベル各種大会の誘致 ○施設のＰＲ ○クロスカントリーコースの利活用 □田村富士ロードレース大会への参加者の拡大と推進 ○学校・スポーツ団体との連携による参加者の拡大 □ふくしま駅伝の参加並びに記録への挑戦 ○質の高い練習、スタッフの確保 ○田村市チーム運営の委託契約	(1)■県外高校等の合宿での利用は３校で４回の利用があり、県レベル各種大会の誘致は総合体育館、陸上競技場ともに７大会であった。総合体育館の利用は市内のスポーツ団体の利用が多いので、県レベルの大会の誘致は総合体育館以外の体育施設を含めた利用調整をさらに検討する必要がある。また、ホームページでの施設のPRや市内の宿泊施設と連携を深め、大学や企業の合宿誘致活動に取り組んでいく必要がある。 クロスカントリーコースの利活用については「たむらクロスカントリー大会」の開催や陸上競技場を利用している団体等がトレーニングとして利用している。 □田村富士ロードレース大会への参加者の拡大と推進は、各地で同様の大会やスポーツ少年団の各種大会が開催されていることもあり、参加申込者が昨年よりも微減となった。 参加者を呼び込むため、近隣のロードレース大会と連携を取り、スタンプラリーを行うなど、何らかの工夫が必要になってきている。 □ふくしま駅伝については田村市チーム運営を田村市陸上競技協会へ委託し、昨年度総合６位から順位を一つ上げ総合５位となった。また、今年度から田村市陸上競技協会が中心となって前国士館大学駅伝部監督の下重氏をコーチに招き、クロスカントリーコースを利用し陸上教室を開催して若手アスリートの育成に貢献している。	A	○多目的運動場の活用を高めるために、コートの準備、用具などスムーズにできる工夫があるといいのでは。 ○ロードレース大会は、市民参加の大イベントとしてもっと参加者を増やしたい ・児童、生徒を中心に ・走れない人にも参加できる種目 ○福島駅伝の活躍とてもうれしいです。中学・高校生が強いとき、良い成績となるので小学生から養成を工夫したい。 ○例年行われるスポーツ行事として各方面より参加者の多い事業となっている。魅力ある事業として更なる充実をお願いしたい。	A
	(2)スポーツ・レクリエーションを通した交流の推進 □小中学生を対象としたスポーツ大会・講習会等の開催 ○ソフトボール大会、駅伝大会等の開催 ○スポーツ教室の開催	(2)あぶくま洞大多鬼丸旗争奪児童ソフトボール大会、ビートル駅伝大会等開催し、市内外から多くのチームが参加され、大会を盛り上げていた。 その一方で総合型地域スポーツクラブにおいて、活動の中心となる指導者の高齢化が目立ち、若手指導者の育成が課題となっている。	A		A
	(3)活動を支える充実した指導体制の確立 □指導者対象の研修会、講習会の開催 ○スポーツ推進員研修会・講習会 ○スポーツ講演会の開催	(3)県スポーツ推進委員研究大会が田村市で開催され、田村市のスポーツ推進委員が主体となり大会を運営したことにより、推進委員として資質の向上が図られた。 また、リオデジャネイロ・オリンピックのメダリスト、卓球の水谷隼選手を招いてスポーツ講演会を開催し、身近に一流選手のプレー等を体感することにより、多くの生徒・児童にとって大変有意義なものとなった。	A	体育協会20団体3,350名、スポ少29団体527名、指導者のボランティアに頭が下がります。何かねぎらいの方法があるといいですね。 一流選手のプールや講習会は、生徒・児童にとってとても良い刺激になると思う。 バレーボールやバスケットボールの試合や一流選手による講習会の機会がまたあると良いと思う。	A

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた　S:目標を上回る成果をあげた　A:おおむね目標を達成した　B:業務に支障はないが、目標は下回った　C:目標を大幅に下回った

	施策	内部評価		外部評価	
教育行政の円滑な推進と効率的運営	**教育委員会の活性化を図ります。** (1) 開かれた教育委員会 □教育委員会の透明性を高める取組 ○所管事務の調査、施設等の視察 ○意見交換会の開催 ○会議運営の工夫、内容の公表	○教育の機会均等、教育水準の維持向上及び本市の実情に応じた教育の振興を図り、広く地域住民の意向を反映した責任ある教育行政を実現するため、教育委員会の活性化を図った。 ○H28.9.21(水)、10.25(火)、H29.1.26(木) (所管事務調査の実施) ○会議の日程をホームページ掲載。	A	○「田村市教育大綱」を中心に課題追求に各機能を働かせたい。 ○田村市の特色ある教育行政と開かれた教育委員会の更なる推進を願いたい。	A
	(2)教育委員会施策の重点化 □教育推進プログラムの重点化と自己評価 ○ダイジェスト版の策定 ○施策の自己評価			○田村市は一つ、「チーム田村市の構築」 ・「田村市総合計画」後期基本計画(H27～33)の具体化を推進	
	(3)外部評価と公表 □外部評価委員による評価及び公表 ○外部評価委員会の定期開催 ○評価結果の議会報告とホームページ掲載	○教育推進プログラムの重点化と自己評価については、田村市教育大綱の各施策の重点目標をダイジェスト版とし策定、内部評価、外部評価委員の各施策の評価。	A	○社会教育委員会はじめ各委員会協議会等で課題を細分化し解決への道を実践化へつないでほし。 ○教育委員会の施策等、市民に見える方策を工夫すると共にインターネット等の活用を推進する必要がある。	A
		○外部評価委員会を年2回開催、評価内容等の確認のため打合せ会を1回開催。 ○外部評価委員は、各種行事等に出席し評価を実施。 ○平成27年度、点検評価報告書をホームページへ掲載。(H23年度から継続)	A	○外部評価委員の評価を取り上げてもらい委員としてやりがいを感じる。 ○外部評価についても広報、インターネット等、市民への提供促進を願いたい。 ○公表するときは、一般市民に分かりやすい言葉・意味のある表やグラフ、行ったことの結果の説明を望む。	A
	教育環境の整備・充実を進めます。 (1)田村市長期総合計画に基づく校舎及び園舎等の整備 □教育活動の場にふさわしい環境の整備 ○要望や状況をふまえた計画的な修繕 □施設の耐震化の推進 ○校舎及び体育館の計画的な耐震化工事	○緊急性の高い順に計画的に修繕を実施。 ○滝根小・大越小・校舎・屋内運動場建設。 ○滝根中学校校舎耐震補強事業、計画。 ○船引南小学校屋内運動場耐震補強計画作成。 ○滝根幼稚園改築事業計画作成。	S	○「田村市長期総合計画」での校舎、校庭整備への努力、学校統合への配慮がすばらしい。 ○各種整備計画が予定通り進んでいた。	S
	(2)学校の安全管理と事故防止 □児童生徒の安全な学校生活のための環境整備 ○安全点検後の迅速な修繕 ○防火管理体制の評価 ○通学路の点検及び危険箇所への対応	○児童生徒の登下校時の通学路の交通事故防止並びに安全対策のため、「田村市通学路安全推進会議」の開催、関係機関との合同での通学路の危険個所の点検及び解消に向けた協議。 ○安全対策として修繕を実施。 ○通学路危険個所の把握、関係機関との合同現地調査、通学路安全推進会議の開催、協議。 ○通学路の危険個所の修繕ができなかった。	B	○青少年健全育成の立場から地域での遊びの場、学びの場考えていくことが必要と思われる。 地域の実態調査から施設の見直しをお願いしたい。 ○教職員一人一人による日頃の安全診断を行い、予防と対応を迅速に進める体制づくりを行う必要がある。	B
	(3)児童生徒の通学支援 □児童生徒の通学支援 ○遠距離通学児童生徒への通学支援	○児童生徒への通学支援については、市の補助金交付要綱に基づく遠距離通学児童生徒への通学にかかる補助や自転車通学者へのヘルメット購入補助を実施。	A	・更なる支援をお願いしたい。	A

	施策	内部評価		外部評価	
教育行政の円滑な推進と効率的運営	**教育予算を効果的・効率的に執行します。** (1)教育予算の効果的運用 □田村市財政計画をふまえた効率的な予算執行 ○教育大綱に基づく重点事業の設定 ○予算編成ヒアリングの実施	○教育大綱の重点施策に基づく事業の計画、予算の執行。 ○各幼・小・中に対する予算編成に向けたヒアリングの実施及び現地確認。	A	○学校が元気のでる予算等適正に執行されている。 ○将来を展望しながらも緊急性のあるものへの取り組みもされており、好ましい。 ○適正実施	A
	人材育成を推進します。 (1)高校生・大学生の就学支援 □奨学制度の効果的な運営 ○奨学制度の周知 (2)高校生の海外留学支援 □海外留学支援制度の周知 ○海外留学支援制度の周知	○広報、ホームページ掲載、市内各中学校、市の高校生が在籍する高校への周知依頼。 ○広報、ホームページ掲載、中学生海外派遣研修報告会での周知。 ○海外留学派遣制度経験者2名に対するアンケート調査の実施。 ○高校生の海外留学の希望がなかった。	A B	○奨学生希望ないことへの対応を考え実行していること評価されるが、人材育成の為活用させたい。 ○制度周知、広報、インターネット等、更なる充実が必要である。 ○留学支援事業の規模拡充、周知広報等の工夫が必要である。 ○中学生の海外派遣研修の募集の時に高校生の海外留学支援のお知らせを入れるなど、更なる周知をお願いしたい。	A B
	教育効果を高めるための学校規模の適正化を進めます。 (1)少子化に伴う複式学級解消に向けた学校規模の適正化推進 ■学校規模の適正化推進 ○各地域の現状把握 (2)統合小学校開校準備の円滑な推進 ■統合小学校開校に向けた事務の推進 ○都路地区小学校2校の閉校準備 ○都路地区統合小学校の開校準備	○今後の児童生徒数の推計。 各地域の現状把握ができなかった。 ○閉校式の開催。 ○引越。 ○都路小学校、校歌・校章・校名碑の作成。 ○閉校式案内状の発送。	B A	○原発事故により児童生徒の移動があり、把握が難しい状態が続いていると思われる。今後の児童生徒数の推移を見極め、児童生徒数減少や増加に対応できる体制づくりが必要である。 ○開校への手順や配慮など、きめ細かく実施され、十分な準備ができ地域も喜んで開校を迎えられることすばらしい。 ○閉校、開校準備等、計画的に推進された。 ○すでに統合した小学校の子ども達は、戸惑うことなく学校生活を楽しくおくれているが、統合後も引き続き支援を受けられるよう願いたい。	B S

～　Ⅴ　結びに　～

Ⅵ　結びに

平成２７年４月に「田村市教育大綱」を策定し、基本方針である「未来を担う人づくり」に向けて、次の６つの重点施策を掲げました。

１　学校教育の充実（豊かな人間性、社会性を持ち、２１世紀をたくましく生きる園児・児童・生徒の育成）
２　生涯学習の充実（豊かな人間性を育む生涯学習の振興）
３　芸術文化活動の推進（豊かな人間性を育む文化の振興）
４　文化財の保護と継承
５　スポーツ・リクリエーション活動の推進（元気で活力をはぐくみ、心をうるおす健康・体育・スポーツの振興）
６　教育行政の円滑な推進と効率的運営

この重点施策を実現するため、担当課ごとに「教育振興推進プログラム」を作成し、具体的な事業内容を設定して教育振興の充実に取り組んでおります。

また、田村市教育委員会では、「地域が育て地域で育つ市民参加の教育」を実現するため、事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、その結果を市民の皆さんに公表することを通して、より効果的な行政を推進してまいりたいと考えております。

教育の目的は、「人格の完成」や「生きる力の育成」を目指すものであり、その成果を数値で示すことは難しい面もあり、事業実施の結果や予算の費用対効果が直ちに表れるものばかりではありません。

しかしながら、適切な指標をあげ、点検・評価及び改善しながら、課題解決に向けて実践することは不可欠であります。数値に表れにくい子どもの変容や意欲・姿勢についても可能な限り取り上げ、継続的に調査・考察・分析を行い、報告書の作成に努めました。

さらに、今回の点検・評価にあたっては、その評価の客観性を確保する観点から、外部評価委員として次の学識経験者に依頼し、ご意見をいただきました。

柳　沼　照　栄　　元田村市教育委員会委員長
渡　邊　世　子　　元教員
蒲　生　和　世　　元田村市図書館協議会委員

各学校の教育活動の充実と教育委員会所管の事務事業の推進は、一体のものであります。田村市教育委員会といたしましては、今回、外部評価委員からいただきました評価や意見を教育施策に生かしてまいります。

更には、日頃より保護者や地域の方々からお寄せいただいている評価やご意見を大切にし、今後とも各学校等における教育活動の充実にために、教育施策の点検・評価を実施し、適切な手立てを講じながら、効果的な教育行政を推進してまいります。